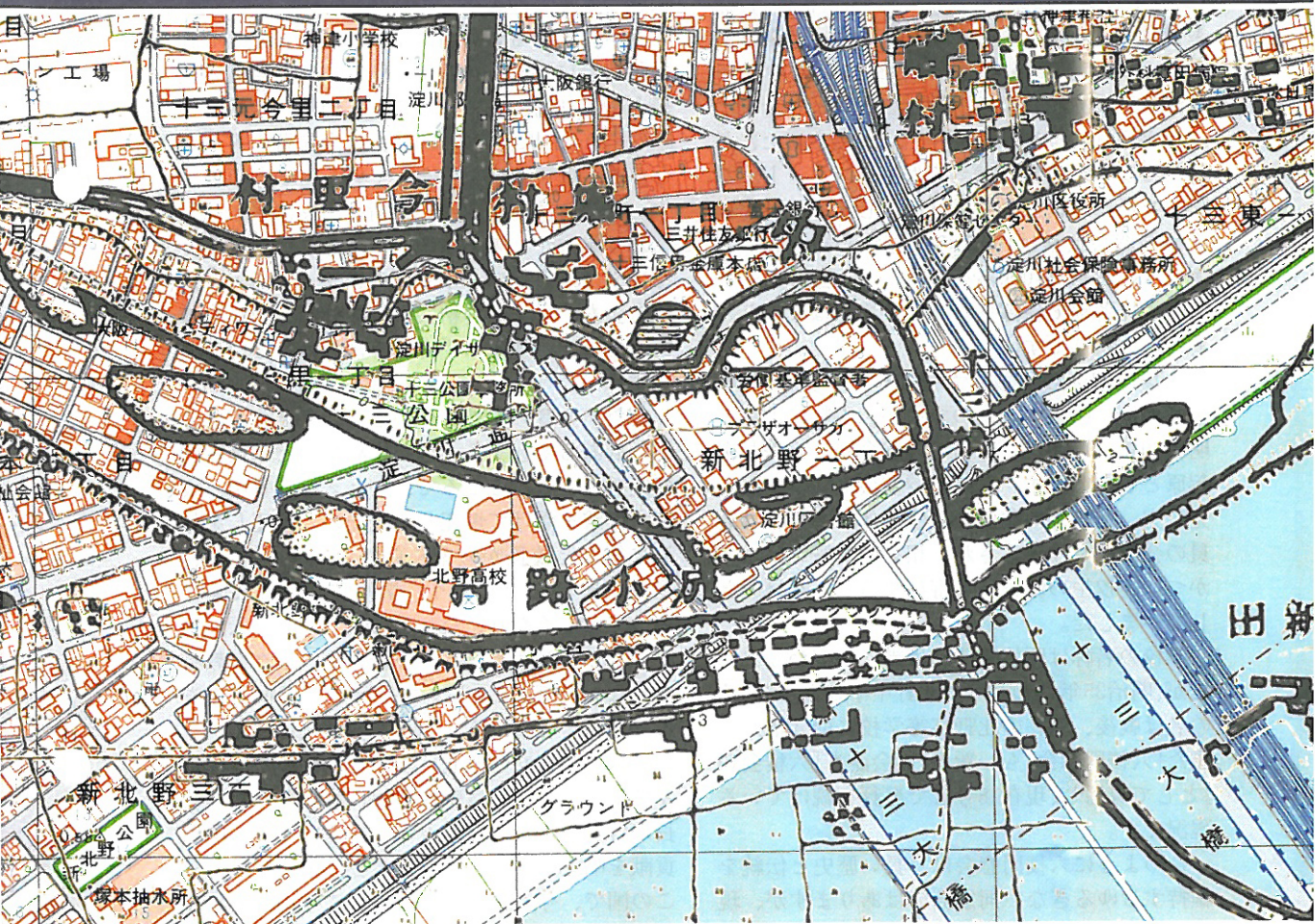


六稜舎報

journal of the RIKURYO alumni association of KITANO HIGH SCHOOL



北野高校付近、最近の地図に明治の地図を重ね合わせました。終面に詳しい説明があります。

I N D E X

48

2007.3.1

- | | | | |
|----|-------------------|----|------------------|
| 02 | 会長・名誉会長あいさつ | 24 | 会費納入・コンビニ振込 |
| 04 | 133周年総会報告・卓話 | 26 | 六稜ギャラリー展示資料解説その3 |
| 07 | 会館だより・トークリレー・六稜文庫 | 28 | 母校の窓 |
| 10 | 東京六稜会 | 31 | 六稜短信、訃報 |
| 12 | 母校に還った六稜生 | | |
| 14 | パーティレポート | | |
| 20 | トピックス | | |
| 23 | 事務局だより | | |

回 覧 板 —六稜の明日を憂う—

六稜同窓会 会長 山本 次郎 (62期)



六稜同窓会会員の皆様方には、益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、母校大阪府立北野高等学校は、今年(2007年)、創立134周年を迎えます。当校は、皆様も校歌の一節でご存知のように、大阪市難波御堂の一隅に初の中高等教育校として明治6年(1873年)設立された「欧学校」を創始とします。

今年3月には119期の同窓生320名を新たにお迎えします。希望に燃えて人生をスタートする若人を私たちは心から歓迎いたします。現在、六稜同窓会会員は100歳の大先輩から18歳の若者まで総数約28,000名を数え、日本国中ではもとより世界各地で活躍されている現状はまことに喜ばしい限りです。

六稜同窓会の名称「六稜(りくりょう)」は校章の形に由来するものですが、史料によると明治29年(1896年)発刊の校友会誌「六稜」を起原としています。当時の校友会は、卒業生、先生方、在校生の共通の親睦団体であり、各会員の会費により運営され、相互の友好をはかり、かつ、在校生の教育にも寄与することを目的としていました。

学校の名称は明治時代には幾度か変わりましたが、明治35年(1902年)に北野中学校となり、その名は戦後、現在の北野高等学校に引き継がれ、また「六稜同窓会」も一新され、会誌も「六稜会報」として復活し、現在48号まで発行を続けている現況です。

このように六稜同窓会は、長い歴史と伝統を維持するゆるぎない同窓会ではありますが、現在、ひとつの難題を抱えております。今、ここにその実情を明らかにし、皆様方のご判断を仰ぎ、ご協力をお願いしたいと存じます。それは同窓会の年会費3,000円の納入者が少く、六稜同窓会の運営が難しくなりつつある、ということです。

少し説明を加えますと、73期(64歳)以前の層は30%~47%の納入率でまず問題はないのですが、74期以降95期(42歳)ではどうしたことか10%~24%と急落し、さらに96期以降115期

(22歳)になると僅か一桁9%~3%という淋しい状態です。このよ

うな中にも明るい話題は見受けられます。それは超若手116期~118期が12%~18%と直近の先輩たちより増加していること、他方、超OBの55期(80歳)以前では290名もの大先輩の方々が今なお会費をお出しになっているという事実です。同窓会は未納者のご事情を山々お察しはしておりますが、実態を個人の恣意に任せておくだけでは、ことは一歩も進みません。最近では、同窓会も、コンビニ納入が可能な払込用紙を準備するなど、制度の手直しをはじめてはいるのですが…。

ただ、会費の支払については、人それぞれの想いもあるでしょう。さしずめ私などは懐古的積極派といったところで、たとえば戦争中、校庭で直撃を受けて爆死した生徒の「戦死」を報告に行けと校長から命じられたとき、「いや、それはいかんでしょ。学校防衛中焼夷弾に当たってお亡くなりになりました、とこう云い給え。きみ」毅然と遮った小松先生。ロクな教科書もない時代に、「じゃあ、ぼくは近世史をやるうかね。きみはミュンヘン会議(1938年。イギリス宥和外交の敗北)までを、しっかり仕込んで下さい」これは戦後本校に着任された林校長が竹谷先生におっしゃった言葉ですが、国際貢献を唱えながら高校の世界史は未履修というこの国で、今から60年前には、こういう真摯な会話が交わされていたのです。

師に礼節あり。戦乱の世を究明するに懸河の弁あり。私たちはこのような学び舎で薫陶を受けましたので、母校にせめてものご恩返しをしたいと考えています。そうして、同窓会の基礎が固まり、時代に即応した新機軸、新企画が打ち樹てられるよう、皆様方のさらなるご協力とお励ましを、切にお願い申し上げる次第です。

ごあいさつ

大阪府立北野高等学校 校長
六稜同窓会 名誉会長

石本 正明



暖冬と言われておりますが、校内のケヤキやイチョウの木はすっかり葉を落として冬ごりの様子です。そんな冬景色の中で、新築なって数年を経過し、校舎も同窓会館もいっそう風格を増してきたように見受けられます。歴史と伝統を、この装いを新たにした学舎にも深く刻んでいきたいものと願う毎日です。

同窓会員の皆様には日々ご健勝にてお過ごしのことと存じます。平素は、母校の教育活動に格別のご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで学校は変わりなく元気で、生徒諸君も勉学に、部活動にと充実した高校生活を送っております。卒業を前に3年生はいよいよこれからが受験に向けての正念場ですが、これまで北野で培ってきた実力を発揮して例年に劣らぬ成果を上げてくれるものと期待しております。

4月の着任以来まだ一年を経過しておりますので、全部の学校行事を見ることはできておりませんが、六稜祭や水泳大会、体育大会など、会員の皆様も在学中に取り組まれたであろう行事のいくつかを見るにつけ、何事によらず真剣に全力で取り組む生徒たちの姿勢に感動を覚えることがしばしばです。この後も、昭和10年から、ただ一度昭和21年を除いて毎年行われ、今回で71回を迎えると聞く断郊競走や、文化芸術祭といった行事が控えており、生徒たちの日頃の鍛錬ぶりを改めて目の当たりにできるものと心待ちにしています。また、近年は特に教職員に対する「評価・育成システム」が導入されていることもあって、校長が先生方の授業を参観する機会も多いのですが、それはまた生徒諸君の授業への取組ぶりを観察する機会でもあり、教職員がよりよい授業をと努力している姿と合わせて、それに応えて真摯に授業に臨む生徒たちの様子も確認することができました。文武両道を掲げ、知徳体のバランスのとれた真のリーダーたり得る人材の育成を目指すことは北野の使命であり、自ら求めるところでもあります。府立高校をはじめ教育を取り巻く状況がさまざま

に変化する中にあっても、本校の基本姿勢と日々の実践は揺るぎのないものと実感しております。

ご承知のとおり昨年の後半には、学校や子供たちに関わって深刻な事件が次々と報告され、マスコミに大きく取り上げられました。北野だけが、そういった問題と全く無縁のパラダイスだと申し上げることはできません。今後も気持ちを引き締めて、生徒諸君はもちろん保護者、同窓会の皆様と一つになって教職員一同、さまざまな課題解決の努力をしてまいります。特に、必修科目の未履修問題はいわゆる進学校に多く見られた問題であり、同窓会の皆様にもご心配があったのではないかと存じます。大阪の府立高校ではこの問題を起こした学校はなかったのですが、北野について言えば、受験の効率だけを目指すのではないという伝統と、それに寄せられる生徒や保護者の信頼があつての結果であると存じます。また、本校の土曜日に行う「公開授業」に関して、来年度から教育委員会が認めない旨の記事が1月にいくつかの新聞に掲載されました。これについてもご心配の向きがあるやも知れません。学校週五日制の中で、授業時間数をどう確保していくかは工夫を要する課題であり、土曜日の公開授業についても委員会と協議の上実施してきましたことではありますが、来年度以降については見直さざるを得ない状況です。教育の質を落とすことなく、混乱のないよう対応を検討していきたいと存じます。

未履修問題も土曜日の活用に関わる課題も、根は学校があるべき教育の姿を求める一方で、大学入試にも現実的な対応をせざるを得ないというジレンマから生じていることです。解決は容易ではありませんが、北野高生をどう育てるのか、日先の効率だけを求めるのではなく、少し遠いところにも視点を置いて努力を続けてまいります。同窓会員の皆様にもいっそうのご支援をお願い申し上げます。

六稜同窓会133周年総会のご報告

金水 敏 (87期)



六稜同窓会133周年総会が10月29日（日）、北野高校内多目的ホールおよび六稜会館において盛大に執り行われた。当日は雨天が心配されたが、幸い持ちこたえ、そのおかげもあって出席者は234名にのぼった。本年度133周年総会は、87期（昭和50年卒）が当番期として全体運営を行った。87期は当日69名が参集、受付、会場案内・警備、卓話司会、懇親会司会、写真・ビデオ撮影などに当たった。運営方針は、前年の当番期である86期の先輩方が立てられたものを基本的に踏襲、「世代を超えた交流」ということを方針として、運営を計画・組織した。



【第一部 総会】

午後1時、司会を務める木村市三総務委員長（73期）の開会の辞によって、第一部の総会が開始された。まず山本次郎会長（62期）が挨拶

された。その中で、135周年に向け、名簿を作るか否かが審議中であること、同窓生の縦（クラブ活動等）・横（同期会）のつながりを、より有機的に活性化させる試みとして、FR（フレッシュ六稜）委員会を中心に、「六稜ネットワーク・サミット」が企画されていることが披露された。

次に、名誉会長・石本正明北野高校校長のご挨拶があった。石本名誉会長は大手前高校のご出身とのことで、北野・大手前の交流戦の思い出について語られた。ご挨拶のご主旨としては、「高校教育を取り巻く環境は決して楽観視できないが、教職員・生徒一同がんばっているのので、どうぞご安心をいただきたい」ということを強調され、具体的な事項として、「昨今取りざたされている、必修科目の履修漏れは一切ない」「Lハイスクール（大阪府）、スーパーサイエンス・ハイスクール（文科省）に指定されているなかで、きのう、読売新聞主宰の日本学生化学賞大阪予選で本校の9名のグループが大阪教育委員会賞を受けた」「来年度からの学区の改変をにらみ、同窓会のご協力のもと、高校紹介のDVDを作成した」等の事柄が披露された。

このあと、木村総務委員長より改めてDVD『六稜魂』の案内があり、続いて新役員の紹介があった。また、藤田財務委員長より会計報告があった。

総会の最後に、京都大学附属病院助教授・江川裕人氏による卓話「生体肝移植：命の贈り物を支える」が行われた（卓話の内容は別掲）。

午後3時前に第一部は終了した。



【第二部 懇親会】

場所を六稜会館3Fホールに移して、懇親会が行われた（この懇親会は、今年北野高校を卒業した118期の歓迎会も兼ねていたが、118期の参加者が3名に止まったことはやや残念であった）。司会は花内（相本）美佐子さん（87期）。まず、当日最高齢の三砂栄次さん（48期）により乾杯の御発声があった。「世代を超えた交流」をめざし、会食は立食形式とし、最初のテーブルは異なる卒業期の参加者が適度に混ざるよう



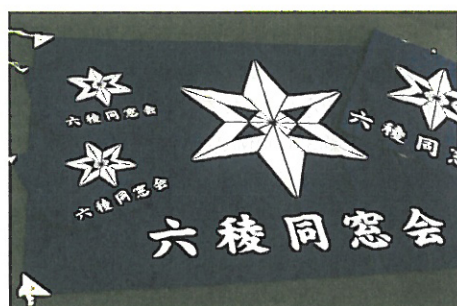
に指定された。お酒が回ってくるとともに、会場のあちこちで、年の離れた同窓生同士の会話が徐々に広がり始めたことは、企画担当者としてうれしいことであった。なお、裏方である87期のために、ホール外のスペースにも食卓を設け、会場内外に気を配りながらも同期間の交流を深めた。

さて、お楽しみのくじ引きであるが、本年も、昨年と同様、賞品として校章入りTシャツ、ハンカチが準備された。ハンカチは、あの「ハンカチ王子」が使っていたハンカチを製造した会社の制作による（田淵信子さん・87期のお世話による）。このTシャツとハンカチは、参加者の間でも大好評であり、グッズ販売のコーナーで大量に買って帰られる参加者もあった。さらに特別賞として、北野高校DVD『六稜魂』も準備された。くじ引きの方法は、受付の際にお渡しした番号札により当たりくじを決めること



とし、また4等・5等は下一桁を、ボールに書かれた数字を引いて決定する方式が取られた。花内さんの巧みな司会で、くじ引きは和気藹々と、楽しく進められた。

次年度担当期の88期の渡辺也晃さんが、一年後の総会に向けて力強く決意を示されたあと、87期の坂本佳三さんの歌唱指導、同じく87期の前川泰之さんのピアノ伴奏で、全員が校歌「六稜の星」を声高らかに斉唱した。最後に新任の副会長である山本雅弘さん（71期）による閉会の辞があり、午後4時半過ぎに懇親会は無事お開きとなった。



今回の総会担当87期の皆様より、同窓会旗を寄贈していただきました。

大・中・小とありますので、いろいろな集まりの時に、お使い下さい。

同窓会事務局までお申し出ください。

大（約140cm×210cm）中（約90cm×130cm）

小（約45cm×60cm）

六校同窓会133周年総会 江川裕人氏卓話内容

田中 和明 (87期)

【江川氏のプロフィール】

北野高校から京都大学医学部へ。同大学院研究生中に京都大学生体肝移植立ち上げに参加、米国留学。帰国後、京都大学第2外科、同移植外科を経て、現在、同肝胆脾・移植外科、臓器移植医療部助教授。医学博士。



日本の肝移植の半数以上に関わり、外科的

手術手技だけでなく広く免疫学、社会医学、医学教育の見地から日本を代表する肝臓移植医です。

趣味は、山歩きとマウンテンバイク。

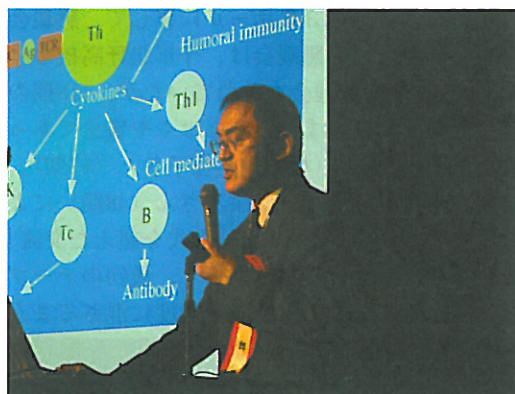
【卓話の内容】

「生体肝移植：命の贈り物を支える」

1900年代初頭に、血管吻合の技術が開発されて以来、臓器移植が医療として可能になりました。臓器移植を支える技術として、臓器保存、免疫抑制、手術・手技の開発、合併症の予防と治療などが進歩を遂げ、現在も発展しつつあります。

生体肝移植は1989年にオーストラリアで初めて成功し、1990年代に医療技術はあっても脳死臓器提供が進まない日本で急速に発達し、これまでに日本で約3,000例の生体肝移植が行われています。はじめは親から子供へという関係でしたが、技術の進歩とともに大人の患者さんも手術を受けることができるようになりました。

移植医療は、病理部、検査部、放射線科、看護部、手術部、ICU、ICT、理学療法部、人工腎臓部、薬剤部、事務部、コーディネーター、外科医といった専門家のチームワークと、彼ら医療者を背後で支える家族の力で成り立っていると言えるでしょう。移植医の資質としては、技量はもちろんのこと、self control、統率力、チームワーク、学究能力が必要であるだけでなく、生命に対する謙虚や畏れの気持ちがなくて



はならず、またそれらすべてを統合する仁愛の心が必要です。

移植医療が進む一方で、それによるさまざまな社会的な問題も生じています。これまで、ドナーに関する原則やインフォームド・コンセントが整備されてはきましたが、欧米と比較して、日本では社会的な視野がまだまだ十分熟成していないと言えます。例えば日本では、「いえ」が患者を守るという視点が強く、「いえ」と社会が分離される傾向が強いのですが、欧米では社会が病人を支えるという考え方が行き渡っています。2005年から2006年にかけての、肝ガン患者の保険適用締め出しの動きも見すごせません。「移植医療をささえるのは社会である」ということを改めて申し上げたいと思います。

【卓話の感想】

日本の移植医療の第一線を走る専門家ならではの、詳細で説得力ある講演でした。珍しい手術現場のムービーも迫力がありました（いささか、気分が悪くなった方もあったようですが……）。移植を必要とするような肝疾患は、決して人ごとではなく、自分や家族にも起こりうることを考えると、「社会が移植医療をささえる」という言葉の重みがいざと重く感じられました（「おまけ」として、ご自慢の、美人の奥さん（87期の同級生）・お嬢さんたちのお写真もご披露いただいて、楽しかったです）。

六稜会館だより

－同窓会館運営の報告－

会館運営委員長代行
邑上 治兵衛 (68期)

六稜文化の発信基地といささか挑発的な表現で提唱、また議論もされ、多くの六稜人による3億円余の寄付により建設された六稜同窓会館も誕生して3年余を迎えた。ここで同窓会館に疎遠の方々にも、現状の報告、改善点や会館運営の将来への展望やらを記して、会館だよりとしたい。

○ 会館の利用状況

開館以来利用者は、単純人数で見ると延べ約40000人に及び、学校はもちろん同窓生の利用も広く皆さんに周知され、また最近になり、近隣地域の会合等にも利用されるようになって来ている。

また、会館運営委員会の発案によりスタートした、北野が誇る六稜人のレクチャー・シリーズ「六稜トークリレー」も40回近くを迎える。

同窓生に医師が多いこともあって、その方面の話が最近続いた傾向はあるが、多岐多様な同窓生の話題には事欠かない。その他「手塚治虫」の生誕日に合わせたシリーズや、8月15日の終戦記念日を心に留めていただく意図での戦争体験シリーズも、次世代への語り部としての役割を担っていると自負している。しかしその戦争体験者の先輩方の高齢化を憂いて文字、映像での保存の話も出ている。

また、特筆すべきは昨年12月に開催された講師、ミクシイの笠原健治さん(106期)には、若い100期台の聴衆者が多くを占め、六稜生以外の方も多数参加を得たことは、六稜FRの協力によるところが多いが、今後のトークリレーの方向を示唆されたとも思われる。

来ていただける聴衆の方々についても、いつもこのトークリレーを楽しみにされている常連と呼べる方たちも居られ、聴衆数の数も安定してきており、主催する側としては、会館でのトークリレーの定着はうれしい限りである。

しかし他方、同窓生でその「六稜トークリ

レー」の存在さえ知らない人がまだ多く居られることは、企画の内容もさることながら、もっともっとPRに努め、盛況にしたいと思っている。

またカルチャーサロンと銘うっての、68期で主催されている恩師、山崎馨先生の「万葉に親しむ」、佐野哲郎先生の「ケルトの神話」も、それぞれ佳境に入り、開講より3年生の最終章に入っていて、同窓生の限らない知的好奇心の活性に役買っていることは、同窓会館の設立目的から言って、喜ばしいことではなかろうか。その他 3階ロビーでの絵画教室、囲碁の会、スタンドグラスの教室等は不十分なスペースの中を、有意義に使って和気あいあいと楽しんで頂いている。

○ 会館の設備

会館の建設時に予算不足から、設備できずに不便を余儀なくされている部分も多分にあるが、それらを補うべく、最近3Fの演者へのスポット照明、演題表示用の掲揚バーの設備が追加された。

しかし、多くの方からの要望のある、グランドピアノの設置や他の諸道具等の設置にも、その収納場所を考えると今の構造では改造の余地もなく、3Fにトイレのない不便、1F女性トイレの狭さ等々、現状のままで我慢しつつ、運用して行かねばならないようである。

その中で今最も看過出来ないものは、地下である。展示室は現在、学校の古い教育資料や卒業生の絵画、書、卒業生から持ち込まれた思い出の品々が展示されている。ところが最近その展示物に地下室の宿命である湿気によると思われるカビ等の発生が確認され、展示物への対策に迫られて居る。

この地下については、資料保管室、展示室についても、専門家の協力助言をえて、根本的、恒久的な対策を早急に行わねばならないだろうが、会館建設時に予算不足で見送った設備を、今また考えねば、地下は無用の空間となって、後世の嘲笑ものになってしまうであろうとの警鐘としてこの一文を残したい。

○ 会館運営の将来への展望

トークリレー、カルチャーサロン、同期会等々の利用上の目的はほぼ満足する方向で活用されていると思われる。

今、会館運営は試行錯誤の中で、関係役員、運営委員の努力で現在に至っている。そこで今以上の利用を望むとすれば、同窓会メンバー一人一人の、会館をいかに利用しようかと言う思いから生まれる企画力であり、それが魅力ある行事につながるのではないだろうか。多くの同窓生からの会館への関心、支援、少なくとも各学年の学年理事の熱心な協力を望むところである。

また、運営上の他の問題点から言えば、現在会館の利用は、平日に限らず、土曜日、日曜日の同窓会事務局の業務日以外の日にも行われている。

その際問題になるのはその休日の会館の開閉錠の責任、管理である。もちろん事務局でも極力対応していただいているが、会館が学校内にある事情から、学校側の非登校日においては、学校の門の開閉さえをも、同窓会側がしなければならぬ日もある。

前述の地下展示場の管理でも同様であるが、常駐の管理者や学芸員らの設置を踏み込んで考えた時、財政面での問題が最大の課題にはなるが、今積極的な将来への展望から言えば、もっともっと夢のある会館に変身するきっかけとして大事なことはないだろうか。

仏を作って魂入れずの諺ではないが、ここで手をこまねいては、せっかくの六稜の宝の箱も、中身が空っぽのままでは、後輩たちに大きな負の遺産を遺すことになる。

トークリレー

【第34回】9月2日

「眼の健康管理と治療法の最前線」

藤本可芳子さん（92期）

【第35回】10月7日

「医学の進歩に伴う昔の常識、今は非常識」

黄 泰平さん（91期）

【第36回】11月11日

「いのちの言葉」

道浦母都子さん（78期）

【第37回】12月2日

(1)「mixiのこれまでと今後」

笠原健治さん（106期）

(2)「Magnetsライブ2006」

芝崎文子さん（109期）

今後の予定

【第38回】2月3日

迫り来る大地震に備えて

宗田奎二さん（71期）

【第39回】3月3日

雇用機会均等法一期生のわたしたち

吉田一実さん（94期）

【第40回】4月14日

（演題未定）

金津博直さん（59期）

【第41回】5月12日

（演題未定）

未定

【第42回】6月2日

（演題未定）

森本昌義さん（69期）

【第43回】7月7日

（演題未定）

石川 勇さん（71期）



第三七回トークリレー デラックスで、ミクシーの笠原さんを開んで

六稜文庫

(11月末までの受付分)

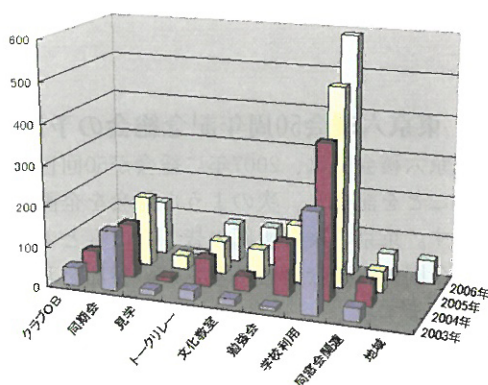
- 柏原みさを(66期) 著
『淡彩画 癒しの人形たち』 牧歌舎
- 島本慈子(82期) 著
『戦争で死ぬ、ということ』 岩波書店
- 一成紀華(91期) 著
『マクロビオティックでいつものおかず&デザート』
- 大阪府立北野中学校第59回同窓生
『北野中学の憶い出』
- 徳岡孝夫(60期) 著
『太陽と砂漠の国々』
『舌づくし』
『「翻訳」してみたいあなたに』
『五哀の人』
『横浜・山手の出来事』
『覚悟すること』
『薄明の淵に落ちて』
『妻の肖像』
- 徳岡孝夫(60期) 訳
『アイアコッカ わが闘魂の経営』
『ライシャワー自伝』
- 原田美禰子(65期) 著
『雨上がりの五行歌』
- 岸本嘉名男(68期) 著
『さすらい』
- 河野英通(60期) 著
『教科書に書けない戦前、戦中、戦後』
- 熊澤安正(55期) 著
『大阪府立北野中学校の思い出』
- 越智俊典(68期) 著
『体験的警察管理論』
『体験的交通管理論』
- 中太郎兵衛(46期) 著
『サリパの灯』
- 岡本明(73期) 著
『ナポレオン体制への道』
『支配の文化史-近代ヨーロッパの解説-』
- 雫石鉦吉(旧職員) 著
『足で見る山』

おわび

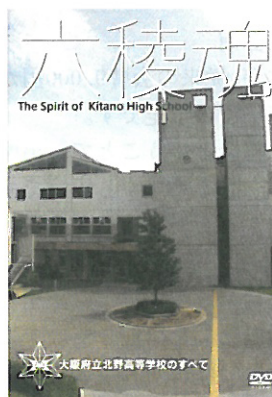
47号掲載の寄贈本に誤りがありました。
訂正させていただきます。

著者 美原紀華 本名 宇津木紀子
『きみにありがとう 零下40度のシベリア
捕虜収容所で交わした約束』

六稜会館年度別利用状況(1ヶ月当人数)



会館の利用者数は学校の利用を中心に年を追うごとに増加しています。昨年から地域の方々の利用も統計に入れていきます。



この四月からの学区再編に伴って、学校側が新学区へのPRのために作成したDVD『六稜魂』一大阪府立北野高等学校のすべては、その作成に同窓会も費用面で協力しました。

そのため、学校側のご好意で同窓会員への頒布が了承されました。

プログラム・・・ナビゲーションムービーの内容は

「六稜魂」……………8分01秒
校史編「北野の130年」……………8分49秒
学校生活編「北野の一日」…6分59秒
学校行事編「北野の四季」…15分11秒
校長インタビュー

「チャレンジする北野」…15分09秒
附録「校舎・施設ガイド」…10分43秒

からなり、64分52秒の大作です。

このDVDを2000円で販売しています。

お申し込みは同窓会事務局まで。

東京六稜会報告

松本 邦宏 (70期)

1 東京六稜会50周年記念総会の予告

東京六稜会では、2007年に総会が50回目を迎えることを記念し、次のような総会を企画しています。東京六稜会所属の皆さんはもとより、広く全国の六稜会会員の皆さんの参加をお待ちしています。

日 時： 2007年6月9日（土）

13:30～ 総会

14:15～ 記念講演「脳の話」（仮題）
88期 定藤規弘氏（岡崎国立共同
研究機構生理学研究所）

15:00～ 懇親会

16:30～ 中締め

17:00～ 終了

場 所： 神田学士会館

会 費： 未定ですが、従来の会費9,000円から大幅値下げの予定です。

その他： 50回記念総会ということで、出席者には記念品を贈呈する予定です。

2 東京六稜倶楽部

東京六稜会では、毎月第3水曜日に、銀座のライオンで、東京六稜倶楽部を開催しています。2003年1月から始まった会は、2007年2月で50回を数えます。毎回60人余の同窓生が年代を超えて集まり、毎回呼び出す卓話者（ほとんどは同窓生ですが、話題によっては外部の方もお招きしています）の話に耳を傾けた後、懇談の輪を広げています。前回47号の六稜会報でご報告した以降の、同会の様子をご報告します。

【第45回】9月20日

卓話者：平石潔氏（75期）

J S R株式会社ライセンシングマネ
ジャー

「今なゼインド？！！～経済発展の著しい
『BRIC's』その一角を占めるインドの現在、過去、未来」

卓話者は、18年間北野で教鞭をとられた『ボタリ』先生のご子息で、先生は96歳になられた

今も池田の室町で元気にお過ごしとのことなど先生の近況からお話をはじめられた。

インドについては、27年間主に発展途上国に技術を供与する仕事をしてこられた中で20年間通われたインドの姿がお話になった。2022年には中国を抜いて世界一の人口になる国、言語は800を超える国、70%の人が肉食主義、禁酒法がありながらアルコールの消費量が最大である州のある国、3000年続く世襲制職業身分制度（カースト）のある国、インドの政治のキーパーソンの一人はイタリア出身の女性であることなどなど、興味あるお話が続く。技術系大学卒業生が毎年12万人生まれる国はいまや新興国の中心として世界中からアウトソーシングを受けることとなっている。ただ、高金利、識字率の低さ、カースト制度、貧困、インフラの未整備などから、中国のように発展しないとの見方もあることなどが紹介された。最後に、インドは一度行くと病み付きになる人と、二度と行きたくない人に分かれる。一度、是非、自分で行って確かめてくださいと話を締めくくられた。

【第46回】10月18日

卓話者：土井陽子氏（64期）脚本家

「芝居っ気、ドラマ作りを通じて思うこと」

卓話者は、わざわざ、大阪から駆けつけてくださり、懐かしい大阪弁で終始にこやかにお話いただきました。学制改革で、大手前高校から編入された旧姓松本陽子さんは、男子生徒からはまぶしい存在だったようですが、大阪女子大学国文科卒業後、関西芸術座で脚本の仕事に従事された。劇作家として有名だった夫君土井行夫氏が、初めて書いた小説「名なし鳥飛んだ」で、第3回サントリー・ミステリー大賞を受賞し、受賞日直前に急逝された。「私は多くの人々に助けられ非常に運が良かったと思う。夫の死後この22年間で自分に良い方に考えることが身についた」としみじみお話されていたが、夫君の死後土井さんの脚本家として活躍は日覚しく、TVドラマ『部長刑事』で人気を博し、これが

松竹の人の目にとまり、初めての芝居作品「いだてん一代」を書き、翌年「上方お笑い大賞秋田賞」を受賞された。1994、95、96年に大阪と東京で演じられた、藤山直美主演の『夫婦善哉』では、演出者と意見が対立、自分の主張を通されたそうだが、昨年再演されたものでは、最後の場面が変更されており、高名な演出家久世光彦さんに「前の演出のほうがよかった」といわれ、溜飲を下げたというお話もあった。2007年1月19日、20日に新国立劇場で3回公演する「大原御幸異聞」も、非常に大きな「幸運」で実現した。人気・実力共に現代を代表する能楽師、梅若六郎先生が能の監修を引受けて下さり、そうそうたる顔ぶれで公演が実現する運びとなった。初めて「能」をご覧になる方も、「能」をお好きで見慣れた方も、この風変わりな舞台を是非ご覧頂きたいと思うといって話を終わられた。

【第47回】11月15日

卓話者：八木啓代氏（92期）音楽家・作家

「歌は世につれ、世は歌につれ」

八木さんは、京都外国語大学を卒業後、政府交換留学生としてメキシコに留学。このとき勧められてオペラを学んだのがきっかけで歌手への道を歩みはじめるが、1年後ポピュラーに転向、現在もメキシコ、キューバ、中南米を主な舞台に活躍中、最近では小説にも手を染められている。当日は、途中で音楽をはさみながら、19世紀から20世紀にかけての大衆音楽の歴史をお話いただいた。18世紀にキューバで起こった混血音楽「ダンサ」が、元になり、ヨーロッパに渡って、ハバネラとして定着、ヨハンシュトラウスなどにも影響を与えた。新大陸に渡って黒人音楽と交じり合ったり、南北戦争の軍歌に影響を与えたり、チャチャチャやマンボを生んでゆくなどなど、また、日本の明治以降の大衆音楽の歴史にも触れられるなど、高校の音楽の授業では聴けない楽しいお話であった。

終始、音楽を流す機械の調子が悪く、卓話者にも聴衆の皆さんにも、ご迷惑をおかけしましたが、時間を30分も超過するほどの濃い内容の話でした。

ただ、『絹の声』とも評される、ご本人の美しい歌声が聞けないのが残念でした。他日に期待しましょう。

【第48回】12月20日

卓話者：武正雄（80期）

BWアセットマネジメント代表取締役
「株式市場の明日を読む～村上ファンドの功罪と日本再生の鍵『長期投資』」

武さんは元野村證券の社員だったが、昨年退社、独立のファンドを立ち上げた。ある会合で、村上氏と知り合った。彼は日本にコーポレートガバナンスが機能していないこと、資産を有効活用していないということを指摘したが、当初の志を変えて、短期志向に走り、M&Aに悪いイメージを植えつけた。会社は誰のものかという議論があるが、それより、国家は誰のものかと問いたい。会場の答えは、国民のものという回答が多かったが、アメリカでは、納税者のものと答える人が多いとのこと。将来1000兆にもなる国の借金を後の世代に送ろうとしているが、その解決策は誰も提案しない。その答えは、長期投資以外にない。武さんは難しい話を終始笑いを誘いながら、話された。最後には司葉子さんとどうして知り合ったかというエピソードまで披露された。

東京六稜倶楽部の詳細は、65期の峯先輩の書かれたものが、六稜WEBで紹介されています。詳しくはそちらをお読みください。

2007年の予定は次のとおりです。

【第49回】1月17日

卓話者：笠原健治（106期）

株式会社ミクシイ代表取締役
「Mixiのこれまでと今後」

【第50回】2月21日

卓話者：林巧（92期）作家

「妖怪へのいざない」

【第51回】3月21日

卓話者：多田宏行（78期）

三井不動産S&E総合研究所長
「これからの東京の町づくり」

東京六稜倶楽部は、毎月第三水曜日に開催します。（2007年3月21日は祭日ですが、開催します。）場所はライオン銀座7丁目店6階です。開始は11時30分、終了は14時を予定しています。会費は2000円です。詳しくは、六稜WEBをご覧ください。

母校に還った六稜生

数学科 長浜 泰洋 (80期)

思いがけず、夜中全く見知らぬ人と道すがら、「大阪の人ですか」「大阪弁で分かります」「どちらの高校でした?」「北野です」。東京で寮生活をしていた社会人1年目24歳の時のこと。4年先輩で、習った先生方もほとんど同じ、奇遇でした。

思いもよらず、教師になっていました。学生時代は、優等生とは言い難く、教師になるなど全くと言っていいほど考えていなかったのですが、人生にはたくさんの分岐点があるのでしょうか。その1点でほんの少しウエートを掛けただけであとの道筋が大きく変わってしまうことがあるようです。あのとき、あの場面でもう少しこちらに体重を掛けていればなどと、反省することも歳と共に多くなってきています。

思えば、大学の合格発表の帰りに恩師(3年の担任は物理の福田先生でした)への報告で北野を訪ねたのが昭和43年3月でした。大学を出て3年半の民間企業の経験をへて、再び大学で教育に必要な単位を取得、そのとき、教育実習でお世話になったのが54年6月でした。そのとき以来27年間、母校を訪ねることもなく、不遜にも忘れた存在になっておりました。

55年に府立高校の教員として住吉、三島、阿武野に勤務し、その間テニス部の生徒の引率で



多くの高校に遠征する機会がありました。不思議と北野には縁がなく、転勤が決まるまで北野について思い巡らすこともなく過ごしておりました。

今般縁があり、母校に還ってきました。4月1

日初出勤し、学校説明等をしてもらい帰宅して、さあ明日から頑張ろうと眠った翌朝でした。腰に激痛、全く動けない状態で病院へ、腰椎椎間板ヘルニアの診断で痛み止めの薬をもらったものの、数日状態は変わらずに結局入院して、牽引やらリハビリで経過をみたものの、一向に良くなる気配がなく結局手術をすることに決めました。7月1日に職場復帰するまで3ヶ月も

懸ってしまい、その間先生方、とりわけ数学科の先生方には随分ご迷惑をおかけしてしまいました。担当する1年生(119期生)にも入学早々から不自由をお掛けしたと思います。



紙面をお借りして皆様にお詫び申し上げます。その間のご好意に感謝申し上げます。術後の経過は良好で、元の通りとまではいかないまでも、普段の生活には支障のない程度になっております。これまで幸いにも病院には全く縁がなく、家族も含めて極めて平穏に過ごしておりましたので、人生どこで何が起ころや分らないものだと痛感した次第です。それから早や3年が経とうとしています。

校舎は新しくなり教室の配置も全く変わってました。当時の北側の通用門が正門に、門から校舎への通路と右手にあるプールだけが当時の面影を残しています。グラウンドの北側の楠も今は中庭にあり、時折懐かしく見上げています。

北野の授業は当時と変わらず、高度な内容を早いペースで進めています。しばらく数学の所謂難問とは無縁に過ごしておりましたので、教科指導を心配したりもしましたが、今教壇に立って、そのとき自分が習ったことが少しずつ思い出されてくるような不思議な感覚を味わっています。

何校か経験してわかるのですが、それぞれの学校には特有の“匂い”があります。それは校舎から出てくるものでは勿論なく、生徒達がそしてほんの少し教員たちが加わって、それも何年もかけて醸し出しているものなのでしょう。今の北野の“匂い”は、当たり前のことでしょうが、40年前と比べるとずいぶん変わってしまったようです。特に、雑草の香りが減ったことだけは確かです。一方、他校と比べるとやはり北野は北野らしい“匂い”がします。今母校に還って、その“匂い”の伝統の重さも実感しながら、微力ではありますが心地よい“匂い”づくりに関わっていきたいと思っています。

「カメラ」と私

社会科（地理） 出口 学（94期）



1980年10月、京都にて
同級生撮影

私がこのカメラを選んだ理由は、父親の薦めによるところが大きい。私自身は他のカメラでもいいと思っていたのだが、当時父親は職場の同僚からこのカメラの評判を聞いてきてカメラはぜひこれにしようとして強く推したのだ。

いざ手にしてみると「重み」を感じるカメラだった。自分に使いこなせるかなという不安も多分にあった。しかし一方で一流のカメラを手にしたという誇らしさもあった。

写真撮影の基本は、正確なピント合わせと露出である。素早くかつ正確にピントを合わせるには、おそらく運動神経と、日々の練習が欠かせない。運動神経には自信がなく、どんくさい私であったが、カメラはそんな私を待ってくれたし、うまくピントが合えば素晴らしい描写を提供してくれた。

露出の決定にはある程度の経験・勘と、こういう場合にはどうするかという思考力が必要である。ある時、こんなことに気がついた。シャッタースピードは1/60、1/125、1/250というふうに約2倍の値で変えることができる。ところが絞りの値には、例えば4と8の間に5.6という中途半端な数字がある。しかも1/125秒、絞り8で露出計の針が適正をさしているとき、シャッタースピードを1/250秒に変え、絞りは4ではなく5.6で適正になるのだ。そうか、5.6は4の1.4倍ではないか。ならば5.6に1.4をかければ…当時の私にはf値という正確な概念はわからなかったが、絞り値のしくみを、カメラの助けによって自分で発見できたのは大きな喜びであった。こんなことがあって、ますますこのカメラが好きになった。

その後、他のカメラもいくつか持ってみたん

ですがね、結局このカメラに戻ってきました。なんというか、手にしっくりなじむんですね。

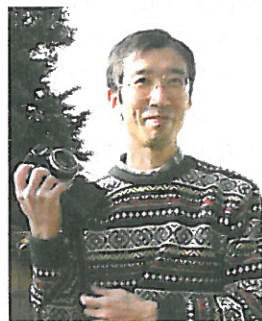
ピント合わせ？相変わずどんくさいですけどね、カメラが自動的に合わせてくれるのって、何だかさせられてる気がするんですよね。露出？最近のカメラには便利なのがあって、様々な状況をカメラが判断して無難な値を選んでくれるそうですね。確かに便利でしょうけど、それじゃあ物足りなくないですか？

何でも自動でやってくれるカメラって、一方では融通がきかない面もあるようですね。ピントが合わなかったり露出が適正じゃないとシャッターがおりないとか。失敗しないためにというカメラの親切心なんでしょうけどね。

最近思うんですけど、写真って撮影者が「これを表現したい」と思ったらそれをいかに自力で上手に表現していくかという過程に価値があるんじゃないでしょうか。その過程では少々の失敗だってあるでしょう。あれこれ手を出さず、でも「これを表現したい」という撮影者の意図には正確に応えてくれるある意味で「不親切な」カメラ。今の世の中そんなカメラが1つぐらいあってもいいんじゃないですか。

まだまだ先の話ですけど、写真が好きなのうちの娘たちにもこのカメラを薦めてみようかなと思ったりして…親バカですかね。

ええ、カメラの話ですよ。えっ？北野の話じゃないのかって？ああ、そうでしたね。じゃあ、「カメラ」のところを「高校」に置き換えてもう一度読んでいただけませんか？



2006年12月、自宅にて
長女撮影

PARTY REPORTS

通期行事（六稜人すべてが参加できる行事）、同期会、各種行事のジャンル別に掲載しています

六稜58期同窓会総会（傘寿のお祝い会）

尼崎 孝雄（58期）

晩秋の好時候の平成18年11月11日夕お陰さまで元気に数え年で80歳の傘寿を迎えることが出来た私達58期の級友31名が、新社名のラマダホテル（旧東洋ホテル）の2F「菊の間」に集合しました。



午後5時に開会し、奥田君の軽妙な司会で始まり、藤村代表幹事の挨拶の後、大先輩の弁護士津田禎三氏（六稜51・52・53期）の数奇な強運の人生卓話に全員真剣に聞きいりました。昭和18年の学徒出陣を経て、海軍少尉として、飛行艇で任地に向かう途中台湾沖で、墜落し機体が真二つに大破し決死の脱出を図る中、海中に沈んでいく機体に取り残された戦友とのとの窓越しの涙の別れ、その後の乗艦した駆逐艦「梅」での決死の戦闘体験、さらに友軍護衛機の筈が、あにはからんや敵機で、攻撃を受け、幸運にも死を免れた奇跡的な運命、戦後は、筆舌に絶する苦労の末、43歳にしてやっと弁護士資格を獲得された、本当に身の引き締まる貴重な体験談に刻を忘れる40分でした。

ついで物故者（129名）慰霊黙祷、東京58期代表森田君の報告、尼崎幹事の六稜同窓会報告、奥田君より会計報告及び次期代表幹事・幹事全員留任の提案に対し満場一致で可決されました。

お待たせの祝宴が例年の如く清木幹事の乾杯の音頭で始まり、持ち込みの銘酒、焼酎と5人の美人コンパニオンのサービスで、美肴、銘酒を堪能し、賑やかに和気あいあい、何時の間に

か予定の3時間半が過ぎ、信垣君のリードで校歌斉唱し、最後に集合写真撮影後来年の元気な快老の集いに再会を期して解散しました。

最後になりましたが、難病のパーキンソン病にも関わらず、介護士付の車椅子に乗って昨年に続いて出席していただいた河野泰通君の友情愛、母校愛に感謝すると共に、更なるご自愛と、養生を祈念致します。

私達58期生は幸いにも、人生の目標の80歳の境界線を超えようとしています。

読む、書く、交友、趣味、運動の基本を大切に、一日一日を大事に、来年も元気に再会出来ることを心から願いたします。

68期卒業50周年記念同窓会

～同時に作品展も開催～

高端 正直（68期）

私達68期は古希を迎える年でもあり、9月2日、卒業50周年を記念して大阪ヒルトンにおいて同窓会を開催しました。関東に加え九州他からも集まり、147名（男性100名、女性47名）と多数の出席者を得て非常に盛会でした。

幹事代表の邑上治兵衛君の挨拶のあと、司会を名調子の高谷安英君にバトンを移し、畑田耕司君の講演（痴呆とその防止）、藤洋作君の乾杯の音頭、恩師、山崎、佐野両先生にご挨拶を頂き宴会に入りました。暫くの歓談、食事のあと、谷川十三夫君、大村皓一両君合作の懐かしの写真投影、高谷君の歌唱指導による合唱、高端による作品展と関東地区の活動報告を中締めとし、校歌合唱と写真撮影で終了しました。あっという間の3時間でした。このあと、別室において有志による2次会で更に親交を温めました。

同時に、六稜会館1階ホールにおいて記念作品展を開催しました。絵画：9名12点、書道：3名4点、篆刻：1名2点、パッチワーク：1



名1点、陶芸：1名4点、合計15名の出品がありました。当日9月2日の午前中だけの展示でしたが60名強の参観者があり好評でした。

私達68期は大阪と東京で毎年同期会を行っています。卒業以来50年振りに会ったという仲間もありました。さて、次にこのように盛大にできるのは5年後か10年後か、お互いに元気に再会できることを祈願しつつ会場をあとにしました。

73期学年同窓会

－卒業45周年を記念して 梶本 興亜（73期）

早いもので、紅顔の美少年・美少女だった73期生も、定年退職の時期を迎えた。45年の歲月である。1976年、34歳の時に第1回目の学年同窓会を開催して以来、5年に一度の集まりは、今回で7回目を数える。今回は卒業45周年記念会となった。

卒業時に男子314名、女子135名であった同期生は、これまでに40名が帰らぬ人となり、現在の総数は409名である。その中で、海外からの2名を含めて118名、30%近い出席があったことは、北野高等学校で過ごした青春の3年間は、我々にとって如何に大きかったかを物語っている。

また、今回は7名の先生方がご出席下さったが、不自由な体をおしてご来場下さった先生もおられ、感動はひとしおであった。

学年同窓会は、11月18日（土）午後1時から六稜会館で開催された。恒例の写真撮影の後、司会の木村君から、パワーポイントを使って、北野高等学校製作のDVD「六稜魂」から抜粋した130年史、高校時代の思い出、亡くなった40名の方々の紹介があり、冥福を祈って黙祷を捧げた。乾杯の後は、一気におしゃべりにのめり込み、会場は騒然となった。今回初参加の方もあり、高校生の頃の懐かしい思い出や、その後



の長い歲月の体験を語り尽くそうとするかのような熱気が会場を満たした。途中、ロスアンゼルスから駆けつけたLimさん、香港から出席の鶴飼さんの紹介があったが、アッという間の3時間であった。最後は、元応援団の竹村君と石田君による校歌斉唱と、学年幹事の久保君の一本締めで閉会となった。

語り足らぬ大多数の人々は、当然の如くプラザオーサカでの2次会へと向かった。ここでは、マイクを次々と指名によって回すトークリレーが2時間にわたって続き、家族の話から日本の石油政策まで、飽きない話題が次々と披露された。更に、多くの人々が3次会へと向かい、夜の更けるのも忘れた。

毎回のことであるが、この学年同窓会は、クラス幹事の方々の労を惜しまぬ努力の賜である。今回も28名の幹事の方々が、1年前から会を企画し、住所を再確認して名簿を作り、会場を設定し、出欠を確かめ、当日の気遣い、終了後の写真配布まで、手弁当で頑張って下さった。また、73期生の潤滑油として、石田君が世話してくれるメーリングリストの効果を忘れることは出来ない。現在124名の同期生が互いのメールを楽しんでいる。

次回50周年には、元気で69歳の再会を果たしたいものである。

卒後40周年記念総会

江本 敬（78期）

連休で新春気分が続く1月7日（日曜日）に、78期の卒後40周年記念総会及び新年宴会がホテル阪急インターナショナルで行われました。我々78期は10年前に卒後30周年の新年会を開いて以来、毎年1月2日午後3時から集まって新春を寿いでおりました。今年は40周年記念ということもあって日程を変更、関西圏以外からも多数の参加があり、総勢87名が集いました。

また恩師の先生方からも福田・藤尾両先生のご来臨を頂きましたが、お二方とも大変お元気で矍鑠としておられ、今年還暦を迎える我々に混じると誰が生徒か先生かまったく区別が付きませんでした。教え子とし

てまことに恐悦至極に存じます。

さて新年会は小笠原の総合司会のもと、小林・齋木・柳父らによる弦楽四重奏で華麗に幕があきました。本会実行委員長江本の開会の辞に続いて学年総会が開かれ、総会議事は今城の報告により満場一致で了承されました。続く恩師の両先生のご挨拶と乾杯の音頭でオアズケも解け、第一阪急ホテルズ社長の山澤が檄を飛ばしてつくられた山海の珍味に舌鼓を打ちつつ、旧交を温めました。さらに特設テーブルがしつらえられ、高校時代の写真や教科書、模擬試験問題などの往時を偲ばせる懐かしい品々が並べられました。テーブルを囲んでの昔話がさらに盛り上がったことです。

ここから司会は演芸の部担当の林田となり、再度弦楽四重奏団の登場後は山崎の新舞踊、久保公一の謡曲仕舞、江本の小唄と続き、トリは再び山崎の番場の忠太郎「験の母」でした。彼の入念な化粧と細部にまでこだわった舞台衣装での独演は、毎回のことですが大いに会場を沸かせ、彼に向かって投げ込まれた大量のオヒネリは78期会計に寄付されております。

東京78期六稜会長の丸山（旧姓江川）が挨拶をしてお開きとなりましたが、その後も同ホテルのバー、ケレスを借り切った2次会には半数以上が参加し、40年ぶりに会う懐かしい顔ぶれも含めて、尽さない話題のうちに新春の夜は更けていきました。



78期は卒業後も仲のよい学年として有名で、新年会や忘年会以外にも少人数の集まりを数えると毎年40回以上集まって遊んでおります。これらの楽しい情報は78期メーリングリストを通じて流れることが多く、ML参加ご希望の方は78期のホームページ jrk78@ml.asahi-net.or.jp からお願いします。

最後になりましたが、今回の会に向けて大変なご尽力を頂きました事務局の山本（吉田）圭子氏はじめ富田昌宏氏、岸田（沖）知子氏ら実行委員の皆様に深謝致します。

83期同期会報告

高橋 典明（83期）

私ども北野83期（1971年卒業）は、10年ほど前から2年に1度のペースで学年同窓会を開いています。



最も多いときは100名近い参加者がありましたが、今回は昨年11月25日に大阪梅田のヒルトンウエストで開催し、1次会の参加者が60名、2次会にも約40名が残って深夜まで大いに盛り上がりました。

高校卒業後35年を経過していますが、同期の集まりには常連的に参加する固定メンバーが約30名います。また、今回は思いがけなく初めて参加してくれた同窓生が約10名もいました。卒業当時の面影を皆が残っていて、大変懐かしい思いで初参加者からの近況報告を皆で熱心に聞き入りました。また東京等の遠方からわざわざ駆けつけてくれた同窓生も9名います。

我が83期は同窓会本会への結集が大変弱くて申し訳ないのですが、同期会の運営自体は順調で、同期の結束は強いほうだと思います。これは同期の有志幹事約10名の協力に負うところが多く、何か企画があれば幹事全員が結集して手分けして段取りよくことを進めています。

またIT分野の専門家の手によって83期同窓

会のホームページが開設されており、同期生はこれを閲覧することにより同窓会の写真を見たり、同窓生が出した新著を知ったりするほか、同窓生の連絡網として有効に活用されています。

この83期の結束力は数年前に私どもが幹事期を担当しました全体同窓会で遺憾なく発揮されたと思っています。

さて、私どもの世代は家庭的には子供もそろそろ手が離れ、社会的には定年にはまだ少し時間はあるものの、子会社や関連会社へ移籍する者も出てきて、少し立ち止まって今後のことを考える時期にさしかかっているように思います。

そういう時期であるからこそ、本当に若かった高校時代を懐かしむ気持ちがより強くなっているのかもしれない。幹事の私への同窓生からの年賀状には、必ず何通かは「今度はいつやるのか」とか「今年は同窓会で会いましょう」とかの催促文が記載されています。私も同期の幹事を引き受けて7年近くが経ちますが、同期生の「熱い」期待を受けてまだまだ退任の日は遠そうです。

25年目の同窓会

栗原 貴子 (93期)

卒業して25年目の同窓会に出席するというのは、やはりそれなりに勇気と覚悟が必要です。43歳というなんとも中途半端な年齢において、25年間の自身の生き様が問われる、いわば人生の中間決算報告とでもいいましょうか。

私達93期は5年前にも同窓会がありました。もちろんその時にもそれなりに覚悟を決めて出席したのですが、あれから5年、体重計の目盛りとお腹周りのサイズは順調に右肩上がりに成長し、お肌の色艶もしっかりと人生の年輪を刻んでいます。でもまあ43歳だもの、こんなもん

よと思っていた私は、実に浅はかでした。

今回は8月の同窓会に先駆けて、クラス幹事約20名による作戦会議が半年前から毎月あり、私も幹事の一人として参加しておりました。幹事になった以上、同窓会への参加は逃れようがなくなってしまったのですが、そこでハタと気がつきました。幹事会に出てくる女の子達は皆すごく綺麗なのです。同級生のはずなのに！みんな43のはずなのに！私だって北野にいた頃は可愛かったのに！

ともあれ8月12日、代表幹事の阪本くんの呼びかけに応じて、100人を超える93期の仲間達が、皆それなりの勇気と覚悟を持って集まってくれました。

仲良しだった△△ちゃん、昔はちょっと怖かった□□さん、女の子にモテモテだった☆☆くん、ああ、憧れの○○くんもいました。会場のあちらこちらで懐かしい同級生の笑顔がはじけます。

恒例の三輪くんの南京玉簾に拍手喝采し、小磯くんのジャズピアノ演奏にうっとりした後、八尾先生が私達の修学旅行の際に撮影くださった秘蔵ハミリ映像が披露されました。キュートで初々しい女子高生に、ハンカチ王子の斉藤くんにだって決して引けは取らない詰襟姿のさわやかな男子学生。キャー、おおー、イヤーン、26年という時間の経過を忘れ、気分はすっかり高校生です。

続いて今回の同窓会の目玉、クイズ大会が始まりました。出題者は93期の歩く卒業アルバム、中川くん。○×方式で、最後まで正解し続けた人が優勝です。

Q. 1年1学期最初の中間試験は、英語のグラマーから始まった。とか、Q. 生徒心得によると男女交際には家人の了解が必要とされた。とか、

Q. 大学受験前、HRの時間にフルーツバスケットをしていて骨折した人がいる。とかいった問題を30個ほど準備していただきました。恐るべし、中川！ちなみに、Q. 2月革命に湧くパリを舞台に描かれたフローベールの傑作といえば、「ボヴァリー夫人」である。という問題では、高校生の頃から天才の呼び名を



欲しいままにしていた奥くんと、彼を信じてついていった大勢の人々が脱落していきました。やはり北野生たるもの、他力本願では駄目なのです。

そしていよいよ最後の二人となり、ラストの問題です。ラストだけは記述式の問題とのこと。最後まで残ったのは、商社マンの堀口くんと、大学で物理を教える田中くん。Q. 二次方程式の解の公式を答えよ。「えーっ！」会場から悲鳴にも似たどよめきが起きます。二次方程式の解の公式！？うーんと、確か分数で、上にプラスマイナスルートの…うーん。早々と戦線離脱を宣言した堀口くんを尻目に、田中くんはさっさとホワイトボードに向かいます。ところが、いきなり解の公式を書くのではなく、彼は x の二次方程式を解き始めました。さすがは田中くん、数学はあくまで美しく、論理的に導かねばならない。

やっぱりそれが六稜魂、北野の美学ですね。「おおお…」賞賛と感嘆の声が六稜会館を揺るがしたかと思われたちょうどその時、田中くんのペンは止まってしまいました。結局彼も覚えてはいなかったそうです。

卒業後間もない後輩の皆さん、決して私達のことを馬鹿にしないでくださいね。私達だって25年前には二次方程式の解の公式くらいスラスラと出てきたはずなのです。でもなにしろ大学の物理の先生の田中くんでさえすぐには書けなかったんですから、25年という歳月がちょっと長すぎたということなのです。

「それでは誰かわかる人は？」という司会のみやちゃんの声にずっと立ち上がったのは藤尾先生でした。あの漢文の藤尾先生です。スタスタとホワイトボードに歩み寄って行かれ、さらさらと解の公式を書いてしまわれました。正解だそうです。参りました。私達のようなまだまだ尻の青い洩垂れ小僧が、あれやこれやとえらそうに言い訳をしてはいけませんね。

六稜会館での二時間という時はあっというまに過ぎてしまいましたが、その後二次会、三次会と盛り上がったのは申し上げるまでもありません。終電では帰れなかった人達も、始発には乗れたとのことでした。今回ご出席くださった福田先生、藤尾先生、八尾先生、本当にありがとうございました。93期の皆さん、次回の同窓

会は6年後です。今回来てくれた人も、来られなかった人も、6年後にまた会いましょう。

115期同窓会レポート

同期会実行委員長 杉田 峻介 (115期)

年末の12月29日、同窓会館は115期生によって熱気に包まれました。14人のスタッフはそれぞれ卒論やアルバイトなどで忙しい中で、はがきの発送から当日の企画までみんなで頑張ってきましたが、その気持ちが伝わったのか、何と当日集まった115期生は230人以上！先生方も4人参加して下さり、会場は満員となりました。

当日は、1時半より受付を開始しましたが、久しぶりに会った人どうしですでに盛り上がり、1階はマイクを使っても声が届かないほど。2時20分からの説明の後、2年次のクラスごとに分かれて会議を行い、3名ずつクラス役員を選出しました。そして115期同窓会体制と六稜同窓会の説明も終わり、いよいよ115期同窓会開会です。実行委員長の杉田のあいさつの後、司会松本の「校歌斉唱」のアナウンスでみんな爆笑。全員で校歌一番を歌いました。先生方に一言ずつご挨拶頂いた後、115期学年主任の中田先生に乾杯のご発声いただき、自由に談笑としました。4年ぶりに会う仲間も多い中で、みんな大いに会話がはずみ、1時間はあっという間に過ぎました。



その後は、スタッフが準備した企画タイムに。クイズ大会は全員参加の勝ち抜きで行い、上位に入った人には六稜グッズやスタッフが用意した景品をプレゼント。対抗ゲームのコーナーでは、くじで当たった人に前に出てもらい、「りくりょうを漢字で書け」など、与えられたお題で対戦してもらいました。特に幕間の「誰が一番富山先生に近いか」という戦い（授業のまね

をしてもらいました)には、みんな大爆笑。富山先生ご自身にも登場いただき、会場は大いに盛り上がりました。また、中田先生は尺八を演奏してくださり、みんな久々に聴く音色にしみじみ。最後に昔の写真を使ったスライドムービーを上映しましたが、懐かしい写真が映るたびに、みんな大いに沸いていました。

最後に、ジャグラー迎田による115期同窓会特別ジャグリングショーが行われ、以前よりさらに洗練された演技に一同感動。集合写真を撮り、4年後の再会を誓って一次会は閉会しました。その後は会場を移し、177人参加での二次会を行いました。みんな心ゆくまで語り合うことができたようです。

当日多くの友人から、「ほんとに楽しかった」「昔を思い出せた」そして、「今まであまり話したことのなかった人とも話せた」といった声を聞くことができました。230人もが参加してくれたこの同期会は、ただ多くの115期生が集まったというだけでなく、また新しいつながりの出発点になった気がします。一緒に運営してきたスタッフ、裏で支えてくれた友人たち、そして当日笑顔で参加してくれた115期の仲間に、本当に感謝しています。最後に、今回の115期同窓会開催にご協力下さった、六稜同窓会事務局の方々、松岡さんはじめFR委員会の方々、鎌田先生や115期担任の先生方に心よりお礼申し上げます。ぜひ次期執行部で、これからもずっと続く115期の良いつながりを作っていきたいと思っておりますので、これからもご支援のほどよろしく願いいたします。

～当日プログラム～

☆一次会（六稜同窓会館にて）

☆二次会（明治安田生命十三ビル9階にて）

飲み放題で自由に談笑（177人参加）

～参加して下さった先生方～

中田先生、野邑先生、中島先生、富山先生

岡山六稜会

第23回総会および懇親会報告 足立 富郎（82期）

「岡山六稜会」第23回総会および懇親会を平成18年8月26日（土）、岡山市桑田町（岡山駅より徒歩5分）のメルパルク岡山で催しました。前

回（平成17年8月27日）は直前に近藤正次会長（58期、第1回～第22回会長）がご逝去され、私が臨時代理を務めました。出席者19名の総会において次期会長に選出され引き継いでおります。また、岡山六稜会事務局は〒700-0964岡山市中仙道47-123（TEL086-246-3352, Fax086-246-3353）に移転しました。

今年度は、六稜同窓会事務局のご厚意・協力を得て、新しい名簿（登録72名、平成18年8月現在）を作成し、総会および懇親会の案内状を送付したところ、27名の出席がありました。女性5名、男性22名であり、年齢構成も幅広くS16卒（54期）からH14卒（114期）まででした。S40代卒（77期から86期）が9名と最も多く出席されています。全体として少数ではありますが多士済々のメンバーであり、談笑し旧知を深め、また新世代から新鮮な力強いパワーをもらったりと、お互いの親睦を深めました。二次会にも17名の参加があり、懐かしい歌や新しい歌とカラオケ三昧でした。勿論、「北野校歌」「琵琶湖周航の歌」「六甲おろし」を歌いました。

岡山県は「晴れの国」です。地震や台風直撃などの自然災害の少ないところで、またマスカットや多品種の桃の産地であり、大変過ごしやすい土地柄です。中心部の岡山市には「後樂園」があり、南は瀬戸内海に面し、北は温泉地などがあります。東には「閑谷学校」、西には「倉敷美観地区」があります。今回都合により参加できなかった方々も多くおられ、次回（平成19年8月25日）の総会および懇親会は盛会になることと思います。新しい企画もありますのでご連絡を宜しく願います。



第23回 岡山六稜会総会 於 メルパルク岡山 平成18年8月26日

トピックス

六稜バレー部60周年パーティー

植松 美季 (111期)

8月12日に開催された六稜バレー部60周年パーティー。私は受付係として微力ながらお手伝いをさせていただきました。入り口で次々に来られる方々をお迎えして感じたことは「皆さんイキイキとしていらっしゃる」ということでした。久しぶりにお会いする先輩、初めてお会いする先輩・後輩、お世話になった先生…。多くの人が続々と集まる光景は賑やかで楽しいものでした。

和やかなムードの中、式典がスタート。「北野中学校」時代の大先輩から今春高校を卒業したばかりの後輩まで、幅広い年齢層のメンバーが同じ空間で同じ時間を過ごしました。

スライドによる「北野バレー部60年の歩み」では、改めて北野バレー部の歴史をふり返ることができました。「排球部」時代、近畿大会出場、初めての合宿（海水浴写真）など、貴重な映像を見ることもできました。また、初めて聞く「応援歌」も楽しんで聞かせていただきました。（後で聞いた話によると、かつては畳がなくなった柔道場を練習場として使っていたとか！新たなトリビアです！）



10年前に行なわれた「50周年パーティー」には現役生として参加しておりました。

ある夏休みの練習後、パーティーに参加するため千里阪急ホテルに行き、そこにはたくさんの先輩方がいて、たくさんの料理があつて…お

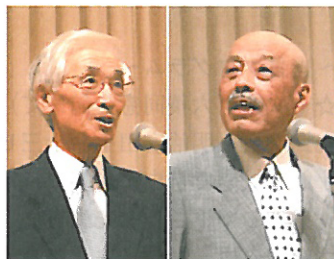
恥ずかしい話ですが、私の記憶はただそれだけなのです。その頃の私は、六稜バレー部の「歴史」や「伝統」「上下のつながり」の大切さ素晴らしさを頭では理解することができて、実感できずにいたのです。



六稜バレー部の伝統や絆が素晴らしいものであることに気づいたのは、高校を卒業してしばらくたってからのこと。しかし、ただ長く続いているから歴史がある、伝統があるわけではありません。毎年開催されている天高戦をはじめとし、役員の方々の活動、六稜バレー部の活動、OB・OGの理解と協力、そして何よりも日々頑張つて汗を流している現役生がいてこそその伝統なのです。

今後は良き伝統を継承できる六稜メンバーの一員でありたいと思います。

最後に、バレーボールという1つのスポーツを通し、尊敬する先生方と先輩方、かけがえない仲間達、かわいい後輩たちに出会えて本当によかったです。



<http://www.rikuryo.or.jp/news/060812.html>

六稜期別対抗ゴルフコンペ

「強豪72期復活？」

島田 孝司 (72期)

恒例の第17回六稜期別対抗ゴルフコンペが7月23日(日)に三田カントリー 27で開催されました。参加チーム10組、参加人員92名という盛大なコンペで、初参加の小生にとっては豪華絢爛なコンペと映りました。

六稜会報No. 46に前回優勝期の73期木村氏が記されている通り、72期は飛ぶ鳥を落とす勢いでこのコンペを盛り上げてきたように聞いています。その名声に応えうるのかと心配しながら参加したものでした。

その不安は個人成績が発表されるに従い薄くなって行きました。72期プレーヤーの名は中々出てこず(下位から発表)ひょっとしたら上位に入賞できるかと期待しました。何と、上位入賞にずらりと72期プレーヤーの名が出てきて、団体優勝の発表を待たず優勝を確信できました。

ダブルペリアの当たりがよかったとのやっかみも他期の人からはありましたが、勝因は全員のスコアーにばらつきが少なく、運を呼ぶことになったことだと思っています。栄えある優勝メンバーは足立大作、池田和子、磯村昭夫、稲池稔弘、香村雄司、坂野勝彦、塩田倉造、島田孝司、棚橋成伍、前川正子の皆さんです。次回は、全員いわゆる「高齢者」に相当しますが「参加することに意義有り」の姿勢で臨みます。



団体優勝した72期のメンバー

第18回六稜期別対抗ゴルフコンペは、7月29日(日)三田カントリー 27で開催予定

六稜クラブ対抗ゴルフコンペ

「錦上添花！ バレー部初優勝」

川畑 年弘 (88期)

9月24日(日)、第18回目となる六稜クラブ対抗ゴルフコンペが開かれました。場所は恒例の三田カントリー 27、今回は野球部A、野球部B、卓球部、バレー部、水泳・陸上混成の計5チームの対抗戦となり、62期から93期までの39人(うち女性2名)が新ペリア方式で腕前を競いました。

対抗戦の結果は、下記の通り、わがバレー部が優勝ということになってしまいました。シンジラナ～イ！実は上位5人のグロス集計ではバレー部は5チーム中なんと4番手だったのですが、ルールすれすれの10人の大量エントリー作戦と隠しホール運に恵まれての「怪拳」でした。

バレー部はクラブ対抗戦の1ヶ月前に創部60周年のパーティを盛大に行っており、その席で62期北島源太郎さんをキャプテンに、71期の田中浩作さんから89期の豊島英夫さんまで老壮青(?)一体となったチームを結成、長年の「参加するだけ状態」からの脱却を誓い合っていました。しかし、優勝するとは誰も考えていなかったはずでした。

表彰・懇親パーティでは北島キャプテンが、バレー部の60周年記念パーティの開催について参加者に報告し、「今回は錦上に花を添えるまことにうれしい初優勝です」と晴れやかに勝利の弁、参加者からお祝いの拍手をいただきました。

また、個人戦では同窓会事務局長の木村市三さん(73期、野球部B)が堂々の優勝、準優勝は同じく野球部Bの大西威さん(76期)、ベストグロスは野球部Aの上條孝二さん(68期)でした。

前回優勝、野球部Bの坂平秀雄さん(89期)の手際の良い幹事ぶりで和気藹々のうちにコンペが終了しました。07年はバレー部が幹事役となります。9月の後半に開催の予定です。バレー部は連覇を目指しませんので、今回、参加を見送られた各クラブの皆様、ふるってご参加ください。また、90期、100期代の若いメンバーのご参加をお待ちしています。

	チーム	ネットスコア
1位	バレー部	368.2
2位	野球部B	371.0
3位	卓球	375.4
4位	野球部A	376.4
5位	水泳・陸上	393.8

六稜ネットワークサミット開催！（第一回）

F R 委員 松岡 信道 (111期)

去る平成18年10月21日、六稜会館にて第一回六稜ネットワークサミットが開催されました。六稜同窓会は130余年にわたる伝統を脈々と継承し、不朽の結束力を築いてきました。このたび、その歴史ある同窓会の縦糸を、各クラブのOB会という強い絆で補強し、各同期会の横糸を編みこむことで、より広範な情報ネットワークを構築しようと、六稜ネットワークサミットが発足しました。

当日は各同期会の代表者、各クラブOB会の代表者をはじめとして34名にお集まりいただきました。（このほかにも16名の代表者から事前アンケートのご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。）54期生の先輩から114期の後輩まで、60年の歳月をこえてお話できることは、同窓会ならではの感想でした。はじめに主催者であるF R委員会から「六稜SNS（Social Network Service）プロジェクト」について説明がありました。これは北野高校の卒業生に限って参加できるインターネットの世界をつくり、遠く離れていても同窓生の交流が図れるようにするというものです。各団体の代表者は熱心に耳を傾けられていました。

その後、情報交換の会合をもちました。自己紹介もかねて、順番に自分が所属する団体の活動状況について説明いただきました。団結力の強い同期会、定期的に行事を開催しているOB会など、どれも魅力的な活動報告でした。一方で、運営費の徴収に悩んでいること、若手の参加率が低いことを課題に挙げている団体も少なくありませんでした。こうして、他の団体の長所と短所を情報交換することで、自分の団体を省みる「ものさし」ができたのではないのでしょうか。

最後には「六稜SNSを成功させよう」「六稜ネットワークサミットを今後も継続するべき」「六稜同窓会クラブ対抗大運動会をしよう」など、参加者一丸となって、六稜同窓会の新しい方向性を見出すことを誓いました。

懇親会では、名刺交換をして、思い出話に花が咲きました。たとえ60年の歳の差があっても、話題に困ることはありません。お話をしていると、実は後輩のお父さんだったと判明したりして、同窓会ってほんとに楽しいなと思いました。これまで別々に活動していた各団体でしたが、お互いのことを知りあい、親睦を図るいい機会と

なりました。みんなが参加したい、出会えてよかったと感じられる同窓会活動にするため、これからも六稜ネットワークサミットは継続的に実施します。皆様の温かいご声援をよろしくお願いいたします。

六稜グッズはいかがですか？

『Tシャツ』M、L（2枚以上送料無料）
800円（2枚1,500円）（詳細は23ページ）
申込記号【TSM】（Mサイズ）【TSL】（Lサイズ）

『ハンカチ』（3枚以上送料無料）
400円（詳細は23ページ）
申込記号【HDK】

『DVD六稜魂』
2,000円（詳細は9ページ）
申込記号【RRD】

『130周年六稜同窓会名簿』
B5判1016ページ
3,000円 申込記号【MEI】

『六稜百三十年』
B5判127ページ
2,000円 申込記号【130】

『六稜会館・新校舎スケッチ』
絵：小森裕三氏（66期）
500円（10枚組） 申込記号【PSS】

『LAST SHOT』
写真：矢作教諭
500円（8枚組） 申込記号【LST】

『新旧校舎ポストカード』
写真11枚：昭和校舎
絵4枚：岡村隆久氏（77期）
1,000円（15枚組） 申込記号【PSC】

『昭和校舎タイル』
18×18cm 木柢化粧
5,000円 申込記号【STL】

『われら六稜人』シリーズ
1998年、1999年、2000年、2001年発行の4冊
各冊1500円（4冊セットで4000円）
申込記号【W98】【W99】【W00】【W01】【W4S】

事務局だより

年会費納入状況について

2006年9月から会費納入方法が増えました。従来は、郵便局からのみの納入でしたが、コンビニからも加えて払込みが可能となりました。そのために、六稜会報47号（2006年9月1日発行）から会費納入のための払込用紙が変わりました。このことは、ご認識いただいていることと思います。

2006年12月末現在での会費の納入状況についてお伝えします。全体の納入率は17%で、前年度の同時期に比して2%増となっています。

その内訳で見ますと、コンビニから600名ほどの方が納入いただいております、新しい会費納入方法の成果が表れていると思われます。

最も納入率の高い期は、57期と65期の47%で、40%を超える期は58期、62期、66期、68期、69期そして73期です。また、最も納入者数の多い期は、68期で次いで73期となっています。

若い期の方々の要望が強いということでコンビニでの納入を加えましたが、残念ながら、96期から115期の納入率が10%に満たない状況にあります。この期に当たるみなさんの会費納入を切にお願いする次第です。

（直近の年会費納入状況は、六稜Webの同窓会事務局に掲載しています。）

この3月末を以って最終集計となりますが、年初の目標の8000名以上の納入に少しでも近づくことを願っています。

納入が未だの方は、この六稜会報48号に挟み込んで同封されている払込用紙で、郵便局かコンビニかの用紙を選択して、納入して下さいますようお願いいたします。

六稜グッズについて

従来のグッズに加えて、昨年の133周年総会の懇親会用に作成した校章入りTシャツ（L、Mサイズ）、ハンカチおよび本年からの学区制変更に伴い学校が作成した学校紹介のDVD「六稜魂」を新たに用意しています。

理事会報告

■平成18年10月21日

- 133周年総会詳細説明
- 年会費払込状況説明及びコンビニ払込採用に伴う費用説明等
- 12月トークリレーの詳細説明
- 六稜SNSの提案、六稜ネットワークの説明
- 北野高等学校文化活動振興賞の基金管理内規の修正説明

同窓会事務局の仕事を

手伝っていただけませんか

事務局では次のスタッフを募集しています

- ◎ 事務局員として 月、水、金および土、日に、交代で勤務可能な方
- ◎ 土、日に六稜会館で行われるイベントのお手伝いをしていただける方

お問い合わせは同窓会事務局までお願いします



Tシャツ M・L 各800円（2枚で1500円）
ハンカチ 400円

郵送ご希望の方は、Tシャツ2枚以上、ハンカチ3枚以上でお申し込み下さい。（送料込み）

コンビニでも払込めます！

年会費のお支払いは、従来、郵便局のみの扱いでしたが、若い方々のご要望にお答えして、昨年9月よりコンビニエンスストアでも、払込みが可能になりました。年会費の納入をよろしくお願いします。

用紙説明

- ① 郵便局払込用紙
年会費とグッズのご購入
 - ② コンビニ用払込用紙 平成18年度年会費のみ
 - ③ コンビニ用払込用紙 平成19年度年会費のみ
- ②③は金額修正が出来ません。
既にお支払済の方には、納入済と記載しております。



a000000000001a

1月末現在の払込データで作成しています。

郵便局用払込用紙 (年会費と経会費・グッズ代金の振込、又は年会費のみの方)

02 大阪		払込取扱票		通常払込料金 加入者負担	
口座番号	009904	金額	68025	千	百
加入者名	六稜同窓会	金額	3000	千	百
住所氏名	001-0011 札幌市北区北一条西 4-100 北野 一郎 様	年会費	●平成17年度・年会費 ¥3,000 ●平成18年度・年会費 ¥3,000 ●133周年懇親会費 ¥2,900 その他・申込	納入済み	3000
通信欄		総合計			
払込人住所氏名	001-0011 札幌市北区北一条西 4-100 北野 一郎 様	受付局日附印			

これより下部には何も記入しないでください。

郵便局での取
できません。

この振込用紙に

受取人

001-001
札幌市:
4-100
北野 -

CVS取納用

(91)908
999999-

代付会社 SMCフ

郵便局での取
できません。

この振込用紙に

受取人

001-001
札幌市:
4-100
北野 -

CVS取納用

(91)908
999999-

代付会社 SMCフ

以下のコンビニエンスストアで払込みが出来ます

- ☐セブン-イレブン ☐ミニストップ ☐ローソン ☐a m / p m
☐ファミリーマート ☐スリーエフ ☐デイリーヤマザキ
☐セーブオン ☐ヤマザキデイリーストア ☐ポプラ
☐サンクス ☐ココストア ☐サークルK
☐HOT SPAR (関東・東北・沖縄) ☐セイコーマート (北海道・関東地区)
☐コミュニティ・ストア

金額が『0』の用紙はコンビニに出さないでください。

払い、払込

コンビニエンスストア専用です。

六 稜 同 窓 会

札幌市北区北一条西

北野 一郎 様 049-198

082-0323004919820060000000
0-000000-8



イナズマサービス(株) 支払期間 年 月 日

(CVS本部提出用)

平成17年度・年会費

納入済み

収
納
印

人
金 千 百 十 万 千 百 十 円
額 0

払込人住所氏名
001-0011
札幌市北区北一条西
4-100
北野 一郎 様
049-198

収 納 印

②

CVS店控

金額 0

受領人
六 稜 同 窓 会
平成17年度・年会費

受領印貼付欄

受領日附印

0円なら出さないでください

コンビニエンスストア用払込用紙 (年会費のみ)

払い、払込 票

コンビニエンスストア専用です。

六 稜 同 窓 会

札幌市北区北一条西

北野 一郎 様 049-198

082-0323004919820070000000
0-003000-2



(CVS本部提出用)

平成18年度・年会費

3000

収
納
印

払 込 票

受
取
人
六 稜 同 窓 会

金 千 百 十 万 千 百 十 円
額 3 0 0 0

払込人住所氏名
001-0011
札幌市北区北一条西
4-100
北野 一郎 様
049-198

収 納 印

③

CVS店控

払込受領証
(コンビニエンスストア用)

払込人氏名
北野 一郎 様
049-198

お事務コード

金額 3,000

受領人
六 稜 同 窓 会
平成18年度・年会費

受領印貼付欄

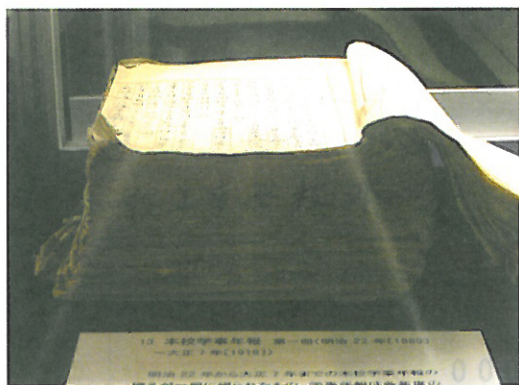
受領日附印

六稜ギャラリー展示資料解説 その3

北野高校社会科教諭 高橋 昌弘

⑮本校学事年報第一冊

ギャラリーに展示している「学事年報第一冊」には、明治22年(1889)から大正7年(1918)までに大阪府に提出された学事年報の草稿が綴じられている。大量の年報草稿は、この時期の本校を知る上で最も基本的な資料であり、大変貴重なものである。例えば明治22年の「大坂尋常中学校」の年報では、同年12月現在の生徒数(326人)、第1級から第5級までの内訳、出席生徒数平均(268人)、卒業生徒数(15人)、卒業後の進路(東京職工学校1人、京都の第三高等中学校3人、明治法律学校1人など)が記されている。次いで書籍や器械・器具の費用、校地・校舎の面積、沿革、教員名と免許状の種類、諸経費の詳細、教職員の勤務年数、生徒の月別平均出席表、学年試験の及第・落第生徒数、各級生徒の年齢平均表など、内容は多岐に及ぶ。



明治28年(1895)の「大阪府第一尋常中学校」の年報の一部を紹介しよう。「一、入学者半途退学者ニ関スル状況 入学者 本年ハ入学志願者ノ数非常ニ増加スベキ趨勢アルヲ察シ、市内ノ志願者ハ悉皆之ヲ収容セントシ、特ニ普通教室六箇ヲ増築シ、予メ是レガ準備ヲナセリ。故ニ前年ニ比類ナキ大数ノ入学者ヲ容ルルヲ得タリ(表以下省略)」。(大阪市内で2番目の中学となる第五尋常中学校、現在の天王寺高校が設立されるのは翌年のことである。) 次いで「一、生徒ノ健康ニ関スル状況 生徒ノ健康ハ一般ニ佳良ナラザルノ感アリ。殊ニ近視眼ノ多キハ著

シキ事実ナリトス。是人口稠密ノ都会ニ住居シ、汚穢ノ空気ヲ呼吸シ狭隘ニシテ採光ノ充分ナラザル家屋ニ生活スルモノ多キニヨルナランカ。今最近ノ活力平均表ヲ左ニ掲グ(表省略)」。

学事年報草稿は大正8年以降も作成された。本校には同様のものが昭和23年まで作成され保存されている。それらの中で重要なものは『北野百年史』にも引用されているので御覧いただきたい。なお『北野百年史』だが、発行されてから33年経ち、現在では入手は困難である。時々古書店に出ることがあるが、5000～1万円前後の値が付く。本校図書館か、近隣の図書館で閲覧して下さい。

⑯堂島新校舎と北野芝田町校舎の平面図

堂島新校舎の平面図は明治20年代のものもあるが、ギャラリーには北野中学時代の図を展示している。北野中学校の平面図を見て気がつくこと。当時は存在して現在はない施設といえは銃器室・生徒控所・博物標本室など。逆に現在はあるが当時なかった施設は多い。例えば音楽室・プールなど。

⑰監督日誌

(明治26年[1893])

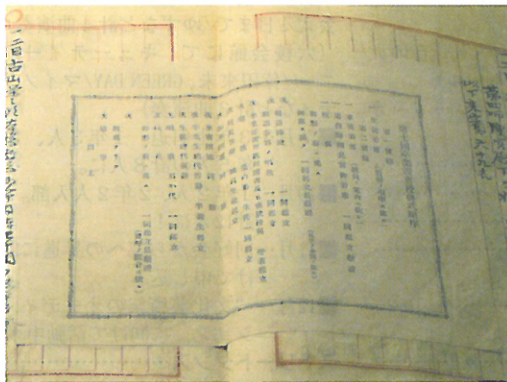
明治時代には様々な日誌(「監督日誌」、「日誌」、「庶務日誌」、「教務日誌」、「教室日誌」)が作成された。現存する最古の日誌がこの「監督日誌」である。「監督日誌」は明治26年から明治42年まで作成されていたようで、その多くが残っている。開けている箇所は7月1日(土)と7月3日(月)のそれぞれ一部である。7月1日の雑項には3日から始まる水泳の心得が記されている。この時代、明治37年まで水泳は学校の前を流れる堂島川で実施されていた。「一、終始共喇叭ヲ以テ合図ヲナス 一服ノ着脱共十分以内ニナスベシ(中略) 一、裸体ニテ街道ヲ通行スベカラズ 一、褌ハ必ズ日本風トスベシ」など。3日の雑項には「本日水泳始業ニ付校長(山崎忠興)ヨリ其心得等懇諭セラレタリ」とある。7月3日の欠席生徒は在籍者537名のうち61名もいるが、この頃の欠席者はたいてい40～

60名だった。

⑮日誌

(明治27年1月～30年12月)

「日誌」は明治27年(1894)から大正13年(1924)のものが残存する(一部欠けている)。開けているのは明治27年4月11日から16日まで。12日に「第7回」卒業証書授与式を挙げて、「第七回卒業証書授与式順序」と題した式次第が貼り付けてある。式次第が明確にわかる最初のものである。教育勅語の奉読、勅語奉答の唱歌・蛍の光・君が代斉唱、校長告辞、来賓演述、卒業生総代祝辞など。この式には第四師団長(北白川宮能久殿下)ら69名の来賓が出席。卒業生は新記録となる34名を数えた。16日には「春季修学旅行トシテ出発。教員十一名、生徒二百八名、小使入足等五名、合二百二十五名、大阪鉄道会社ノ汽車ニヨリ桜井ニ出テ同所ニテ昼飯」などと記されている。なお「修学旅行」が登場するのは明治21年である。



⑯大阪尋常中学校校友会規則(明治26年改正版)

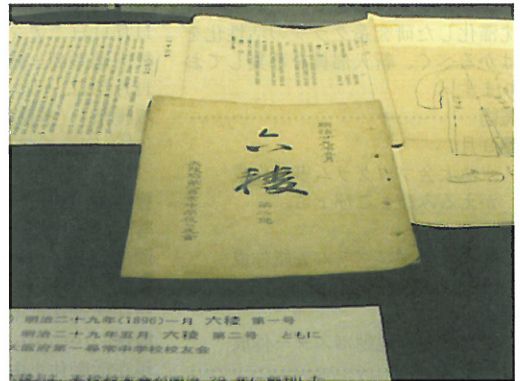
明治25年10月に大阪尋常中学校校友会が発足した。校友会は教職員・生徒が会員であり(校長が会長となった)、旧職員や卒業生も会員になることができる組織だった。発足当時は文藝部・武術部・運動部が活動した。最初の校友会規則は明治25年に作られたが、展示しているのは翌明治26年に改正されたものである。改正された箇所の一部を紹介しよう。「運動部規約 第十四条 陸上運動部中別ニベースボール団ヲ置ク。団員タラントスルモノハ理事ニ申出ツベシ。第十六条 ベースボール団ニ要スルボール及バット等ノ器具ハ団員ノ自弁トス」。ついでに「文藝部規約 第一条 本部ハ演説討論ヲナシ及文章図画等ノ競点ヲ行ヒ、部員相互ニ智識ヲ交換シ、弁論文章等ヲ練習スルヲ目的トス」。「武術部規

約 第一条 本部ハ撃剣柔術等ヲ為シテ身ヲ強健ニシ、尚武ノ氣風ヲ養成スルヲ目的トス」。

⑰『六稜』第一号・第二号

(明治29年[1896])

『六稜』は本校(大阪府第一尋常中学校)校友会が明治29年に創刊した雑誌で、昭和16年(1941)の第91号まで続いた。この間の学校・生徒・卒業生の動向を知ることができる貴重な資料となっている。第一号(2月28日発行)は89頁からなり、目次の後に編集委員代表の豊田善平(9期)が書いた「発刊辞」が掲載されている。その全文は『北野百年史』(384～386頁)に出ているが、難解な言葉が鏤められていて今の高校生には理解できないだろう。この号には藤岡作太郎(旧職員)・厨川辰夫(白村)(のち京都府立一中に転校)・熊本謙二郎(教員)の文章・訳詩文が掲載されている点でも貴重なものである。



万葉のまど

古代日本語の在り方について詳細な研究を重ねられ、昭和26年から38年まで、母校で国語を教えられた、山崎馨・神戸大学名誉教授が、やさしく解き語る万葉講座をCDで出版されました。

CD 6枚で9450円ですが、同窓会事務局に申し込まれたら、8000円で購入できます。



母校の窓

部活動活動状況

47号以降に変更のあったもののみ掲載

文化部・同好会： 20団体活動状況

文芸.....
E.S.S.....

物理研究.....

化学研究.....

私たち化学研究部は、部員数7名(3年生3名、2年生3名、1年生1名)で活動しています。

生物研究.....

地学研究.....

3年生1名、2年生2名、1年生は...まだ入っていません

沈滞化した研究系クラブの活性化をはかるべく、新入部員を募集しております!!

美術.....

■9月

水泳大会プログラム表紙作成
かえるみびよこびよこ。

■10月

体育大会プログラム表紙作成
嬉しい二色刷り。

■12月

文化部部室運動ポスター作成

コーラス.....

現在、来年度からセミナーハウスを活動場所として使えるよう計画しているところ。

現在の活動場所は楽器庫で狭いため、活動場所が改善されることによって部員増加を期待しています。

また、現在文化部全体で、部室を確保するための運動を開始したところ。

オーケストラ.....

●2006年の行事予定

10月14日(土)

高木和弘氏のリサイタルで共演&一曲演奏「ハンガリー舞曲第5番」

10月21日(土)

体育大会にて得賞歌と校歌の演奏

11月3日(金)

第一ブロック音楽祭

11月23日(木)

大阪府高等学校音楽祭

12月中旬

クリスマスコンサート(予定)

1月中旬扇町教会礼拝

2月9日(金)

文化芸術祭舞台部門

吹奏楽.....

7月23日 奏でよう夏の吹奏楽コンサート(千里金蘭大学佐藤記念講堂)

「喜びの音楽を奏でて!」「吹奏楽のための一章」「GR」

7月31日 大阪府吹奏楽コンクール北地区大会(大阪府立青少年会館)

「吹奏楽のための一章」「GR」
金賞・地区代表

8月11日 大阪府吹奏楽コンクール(大阪府立青少年会館)

「吹奏楽のための一章」「GR」
銀賞

10月21日 北野高校平成18年度体育大会ファンファーレ、「双頭の鷲の旗の下に」「アルセナル」

10月28日 中学生体験入学(本校多目的ホール)

「バイレーツ・オブ・カリビアン」
11月5日 第一ブロック演奏会(池田市アゼリアホール)

「A列車で行こう」「天空への挑戦」
11月11日 アンサンブルコンテスト校内選考会・発表会

11月18日 ミニコンサート「音の大収穫祭」(本校多目的ホール)

「天空への挑戦」「バイレーツ・オブ・カリビアン」他

書道.....

写真.....

演劇.....

新聞.....

現在活動休止中

放送.....

現在活動休止中

映画研究.....

活動休止中

囲碁・将棋.....

7月

第30回全国高等学校囲碁選手権大会(東京)1日目敗退

8月

第30回全国高等学校総合文化祭(京都)女子個人5位

10月

第23回大阪府高等学校新人大会女子個人優勝

11月

近畿高等学校芸術文化祭囲碁部門女子個人3位

漫画研究.....

Nice to meet you!

新会長の徳原です(^ ^)

えっ?ESSの部長と同一人物じゃないかって?That's right

現在の部員数は...って、ウチ一人かいっ(爆)

漫研の主な活動といえば、やはり六

稜祭で部誌の「逢魔が時」を発行することです★

しかし...このまま行くと私が来年で漫画を描くことに...

「うわあ...あんな奴に部誌独り占めされたくねえ...。」と思う人はぜひぜひ入部してください!!

自分の作品を発表できる、またとい

いチャンスです♪私と一緒に、2代目手塚治虫を目指しましょう(笑)

また、描くのは苦手だけど、読むのは好きという方もOK!ほぼオールジャンルいけますんで、アツク語りまSHOW!

毎週水曜の昼休み、食堂のコピー機左横の木の机で、陰気そうな女子を見かけたら、勇気を出して声かけてください。いつでも待ち受けています。入部したい方は、指導室の野邑先生まで。

園芸.....

活動休止中

フォークソング.....

■6月...六稜祭に参加

(新トレ前にて AM11:00/HY、また会える日まで/ゆずなど計4曲演奏)

(六稜会館にて キューティーハニー/倅田来未、GREEN DAY/マイノリティなど計3曲演奏)

■7月...3年生引退。1年3人、2

年5人の計8人に。

■10月...1年2人、2年2人入部。計12人に!

■11月...同好会から部への昇進に向けて申し込み

■12月...“文化芸術祭のオーディション”に向けて活動中!

ストリートダンス.....

9月 箕面2中文化祭オープニング出演

10月 学校中庭で発表 第一回

11月 阪大学祭出演(三名)

エリア16出演

12月 学校中庭で発表 第二回

Music Producing.....

.....

運動部：

22団体活動状況

陸上競技.....

水泳.....

器械体操.....

大阪府春季大会(4月)

2部 女子 団体総合 6位

堺春季大会(5月)

中級 女子 団体総合 チームA 3位

個人総合 4位 美濃部麻由

種目別 平均台 2位 美濃部麻由

府立高校大会(7月)

男子 団体総合 5位

女子 団体総合 6位
男子 種目別
あん馬 6位 能村祐毅
2部・3部大会(8月)
男子 団体総合 4位
高校総合体育大会(9月)
2部男子 団体総合 6位
女子 団体総合 6位
新人大会(11月)
男子 個人総合 10位 榎原政之
女子 個人総合 9位 奥田裕加里
堺選手権大会(11月)
中級男子 個人総合 5位 木村俊文
女子 種目別 段違い平行棒 3位 奥田裕加里
柔道.....
剣道.....
合気道.....
現在では来年次の演武に向け一年生は来年の演武を決め、日々努力しております。また、2年生も昇段試験に向け一層の努力に励んでいます。これからも引き続きご指導よろしくお願ひします。
硬式野球.....
＜部員構成＞
部員：2年生17人・1年生21人
マネージャー：2年生3人・1年生1人
2006年度(新チーム結成～)
V S 桜宮 2-12 ×
2-8 ×
V S 汎愛 2-7 ×
5-0 ○
V S 尼崎北 4-5 ×
5-10 ×
V S 平安 6-19 ×
4-8 ×
V S 箕面東 13-6 ○
0-6 ×
V S 県立尼崎 8-1 ○
0-3 ×
V S 阿武野 14-3 ○
3-8 ×
V S 池田 3-8 ×
8-3 ○
V S 豊島 5-4 ○
7-6 ○
V S 渋谷 6-0 ○
6-0 ○
V S 大阪学院 9-11 ×
5-4 ○
V S 大商大高 3-6 ×
1-9 ×
V S 東 2-1 ○
V S 王子工業 5-2 ○
V S 浪速 3-9 ×
0-0 △
V S 北陽 5-4 ○
5-9 ×
V S 商大堺 3-4 ×

V S 汎愛 6-4 ○
V S 履正社 3-14 ×
V S 上宮太子 0-5 ×
V S 勝山(秋季大会一回戦)
10-0 ○(5回コールド)
V S 柏原 7-15 ×
1-10 ×
V S 関大一(秋季大会二回戦)
4-6 ×
V S 桜塚 3-2 ○
8-7 ○
V S 高石 1-2 ×
4-1 ○
三校リーグ戦
V S 八尾 4-5 ×
V S 市岡 1-6 ×
V S 三島 2-4 ×
1-5 ×

OB・父兄の方々を始め、本当に多くの方々にご支援・ご声援をいただき、選手一同心より感謝しております。次の公式戦で勝ち進んでいけるようこの冬トレーニングを重ね、体力をつけ、頑張っていきたいと思います。2年生は残す公式戦は2つとなりましたが、大好きな野球を通じて巡り会った掛け替えのない仲間とともに、一日でも長くこのチームで野球が出来るよう「精一杯を超える」プレーをして、皆様に恩返しをしたいと思っています。
これから引き続き、暖かいご支援・ご声援をよろしくお願い申し上げます。

サッカー.....
現在、部員数は2年10人、1年19人、マネージャー5人の計34人です。3年生が引退して新チームとなり、試合に勝っていけるように日々一生懸命練習しています!! ☆部員は仲が良く、とても楽しいクラブです☆
新人戦1回戦 ○14-0 北淀
2回戦 ○1-0 布施
3回戦 ×0-7 関大一
春季大会
1回戦 ○2-1 和泉工
2回戦 ○13-1 泉尾
3回戦 ×0-1 香里丘
天高定期戦 △2-2
選手権1回戦 ○10-0 開明
2回戦 ○3-1 美原
3回戦 ×0-3 産大
膳所高定期戦 ×1-3

ラグビー.....
＜定期戦＞
6/17 0-65 洛北×
8/16 0-74 早稲田学院×
8/27 19-17 神戸○
10/15 0-97 天王寺×
＜秋季大会＞
1回戦 3-31 開明×

現在部員数は2年生10人、1年生7人、マネージャー2人の計19人です。3年生が引退し部員数が減りましたが、活気に溢れた雰囲気の中で練習をしています。

7/2に行われたOB会ではOBの皆様から激励を頂き、選手、マネージャー共々そのお気持ちに応えるべく、意識を高めて日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。夏の合宿を経て、目標である“花園”を目指して頑張っていきたいと思いますので、今後とも応援宜しくお願い致します。

男子バレーボール.....

三年生が引退して、現在、2年生2人、1年生4人の計6人です。人数は少ないですが、やる気と根性は何のクラブにも負けません。限られた時間の中、自分たちの力を高められるよう、工夫して練習しています。近畿大会出場を目標にこれからも頑張りますので応援よろしくお願ひします。

大阪総体

○2-0 豊島
●0-2 履正社
府立高大会(予選)
●0-2 春日丘
○2-1 吹田
府立高大会決勝トーナメント
●0-2 八尾
大阪新人高校大会(部別)
●0-2 枚方
●1-2 関大一高
●0-2 清風

男子バスケットボール.....

7月23日
総体予選一回戦 ●51-60 高槻北
10月29日
北地区公立校大会○82-70 茨木
●65-93 箕面
11月5日
北地区公立校大会○103-33 阿武野
11月12日
北地区公立校大会●59-73 山田
●54-76 北千里

男子ハンドボール.....

女子ハンドボール.....

男子テニス.....

卓球.....

春季高校選手権
男子団体1回戦 ●2-3 摂陵
男子ダブルス ベスト64
男子シングルス4回戦
国体予選
男子シングルス ベスト32
全日本ジュニア予選
男子シングルス3回戦

夏季高校選手権

男子シングルス4回戦
男子ダブルス3回戦
男子団体1回戦 ●1-3 開明
大阪高校総体
男子団体2回戦 ●2-3 三国丘
インターハイ協賛大会
予選リーグ ○2-0 関西福祉
○2-0 西浦
●0-2 香里丘
決勝2位トーナメント
●0-2 阪南大高
チャレンジカップ
予選リーグ ○2-0 淀川工
○2-0 堺西
●0-2 此花総合
決勝2位トーナメント
●0-2 岸和田

近畿大会を目指して猛練習中です!!

山岳.....

応援.....

活動休止中

ソフトボール.....

女子バレーボール.....

女子バスケットボール.....

メンバーは1年生10人、2年生4人でとても活発なクラブです。

練習に積極的に取り組み、みんな楽しく仲良く活動しています。けれど平日は指導者がいないため、メニューを自分たちで考えなくてはならない状況です。

土日はOBさんやOGさんときどき参加してください。

また熱心な先生が来てくださるおかげで、密度の濃い練習ができています。

今は特に体力づくりを目指しているので、一日3時間弱という短い時間を有効に使って基礎練やランニングを中心にやっています。

こんな女バスですが応援よろしくおねがいします(o^v^o)

練習に来てくださるOB・OGさんはこちらへどうぞ(・u・*)

女子テニス.....

私たちは、2年生9人、1年生12人、マネージャー1人でテニスコートで毎日楽しく、一生懸命、活動しています。

時に厳しく、時にわきあいあいとボールを追いつけることはまさに青春です。部員はみんな仲が良く、息ぴったりです。

♪エースエースエースエースをねえ〜♪

試合成績

◇2006年度◇

春季総体本戦出場

ダブルス1組

シングルス4人

大阪春季団体

ベスト16

春季赤坂杯(単)

本戦出場4人(1人優勝)

バドミントン.....

+■2006年■*+*

秋季豊能地区大会

[男子シングルス上級の部] 3位

[男子ダブルス上級の部] 3位

[男子シングルス初級の部]

優勝、2位、3位

[女子シングルス初級の部] 優勝

第61回大阪高等学校夏季バドミントン選手権大会

[団体戦]男子 3位

[女子ダブルスⅡ部] ベスト8

[女子シングルスⅡ部] ベスト16

第60回大阪高等学校春季バドミントン選手権大会

[男子ダブルスⅡ部] 3位

国際交流活動のご報告

本校と姉妹校関係を結んでいるケントウッド校を含むケント地区からの派遣団が6月22日(木)~7月2日(日)の日程で来日された。今年度は10日間の滞在で、その前半の阿武野高校での受け入れを経て、本校での学校生活体験は28日(水)~30日(金)までの3日間となった。第一日目、午前中のオリエンテーションの後、幸い天候にも恵まれ、グラウンドで全校集会を開き、生徒、教職員への紹介。引率教員のザモラ先生に続き、今回の来日生徒(ケントウッド校から2名[男女各1名]、ケントレイク校から2名[女子2名])も、それぞれ相当準備したと思われる日本語での挨拶が行われた。

授業体験としては、28日(水)午後の4限、5限、29日(木)、30日(金)であったが、社会、数学、情報、理科、体育(水泳)、家庭科、音楽、英語、HR活動と広く受講する機会を設けた。また放課後には剣道部等クラブ活動にも参加した。

30日の放課後には六稜ホールにて生徒主催による送別会が行われ、3月のケント派遣生5名とESSが企画、運営を担当してくれた。オーケストラ部の演奏に続き、50名余りの参加者での創意工夫された種々のゲームやアトラクションとともに、軽い飲食をしながらの歓談はとて

も微笑ましいものであった。

今回の受け入れを振り返り、ケント生の出迎えから関空への見送りまで、ご支援をいただいたホストファミリーの皆様には、心よりお礼申し上げます。



おくやみ

田中秀康先生(数学科H1~H7)が平成18年7月5日、ご逝去されました。

森真一先生(数学科H10~)が平成18年11月27日、ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

六稜短信

■ 訃報

平成18年9月以降、11月末までにご連絡を頂きました方々を掲載させて頂きました。次号は9月以降19年5月末までにご連絡頂いた方々を掲載する予定にしております。

期名	お名前	ご逝去日
54期	山下 淳 様	10月12日
57期	熊野 正厚 様	10月19日
57期	六島 昭治 様	10月25日
57期	田中 昇 様	11月26日
58期	西川 喜方 様	11月1日
67期	泉 陽一郎 様	10月23日
69期	岸田 一夫 様	9月4日
70期	吉村 弘 様	11月4日
70期	羽尾 秀之 様	11月28日

ご卒業期順及びご逝去日順に掲載しております。

謹んで、お知らせ致します。

森真一先生を悼む

国語科 中村 一郎

森さんとはこの4月から、3階職員室で机を並べていた。北野への転勤が同期で、気心も知れており、お互い気をつかうこともなく気楽に過ごしていた。森さんは毎日のように夜遅くまで学校に残って仕事をしており、私の方が後に帰ったことはほとんどない。部屋の管理・整頓などは彼がいつもしてくれていた。北野の数学教師の宿命として、行列のできる生徒の質問や補習・講習に日々追われていたし、3年の数学考査は9種類もあり、問題作りや採点などでいつも忙しそうであった。「疲れたね」「しんどいなあ」と、挨拶代わりに言い合っていた。

それにしてもあま
りに突然の訃報だっ



森先生(左)と執筆者・中村先生(右)
2004年3月、116期学年親睦旅行にて
(出口撮影)

た。2日前の土曜日には普段通り話をかわし、帰り際「お先に」と声をかけた。森さんは机に伏せて寝ていたが「はい」と返事した。それが最後の会話だった。森さんは疲れると部屋でよく寝ていたのも、その日伏せている姿も特に気にならなかったのだが、今振り返ると、亡くなる直前の疲れ方は尋常ではなかったように思う。「どうも体調が悪い」と漏らしていたし、以前より部屋で横になっている時間も多くなっていた。「休まなあかなあ」ともよく言い合ったが、実際休みはなかなか取れないのだった。また、「最近父親の体調がよくなくて心配だ」ともこぼしていた。3年生も大事な時期を迎えており、心労が重なっていたように思う。しかし、119期生の卒業を間近にひかえ、あともう少しで一息つけるはずだったことを思うと、この時期の急逝は本当に残念でならない。

転勤してきたのは9年前で、校舎改築のはじまる年だった。4月1日、なかなか厳しい内容の教員向けオリエンテーションを終え、いかにも伝統校といった趣のある旧校舎を見学しながら、「たいへんな学校へ来てしまったなあ」と感想を漏らしあったことを覚えている。その後、116期の担任団として3年間苦楽をともした。北海道への修学旅行の帰り、伊丹空港で「3年ほど寿命が縮む行事も、ようやく終わった」と心からホッとしたふうで言っていたのを思い出す。(森さんは飛行機が大の苦手なのだった。)

森さんは、一見とっつきにくそうな感じもあるが、基本的に気持ちの優しい人で、陰でいろいろ生徒を思いやって気を配る人であった。またどこかとほけたユーモラスなところもあり、森ファンの生徒も多かった。

告別式から数日後、訃報を聞いた116期の女生徒が二人、部屋に訪ねてきた。一人は2年時の担任だったということで、机の前で手を合わせ、ひとしきり涙を流した。高校時の思い出など語り合ううち、きちんと整頓された森さんの本棚に、116期の卒業文集があるのを一人が見つけた。一緒に懐かしく読み返す中に、森さんのページもあった。アンケートに答える形で、好きな言葉「なるようにしかならん」。食堂のお気に入りメニュー「カレーパン」。初恋「10才」。などがある中に、将来の夢「のんびりとした老後の生活」とあった。

47才。あまりに早すぎる死であった。

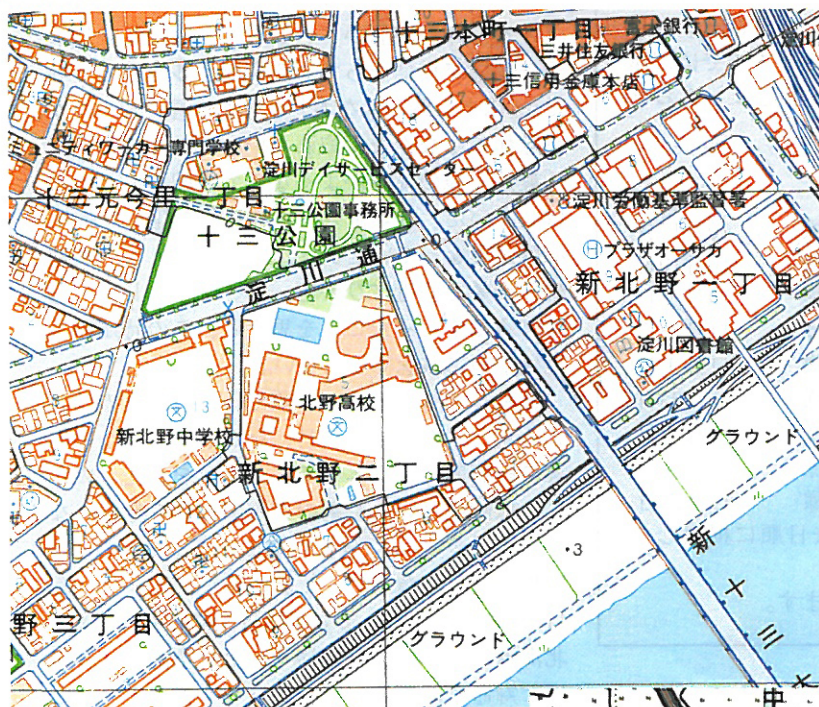
六稜同窓会134周年総会 開催のご案内

日時：2007年10月28日(日)

場所：北野高校 多目的ホール・六稜会館

時間等詳細は49号にてお知らせします

担当期 88期



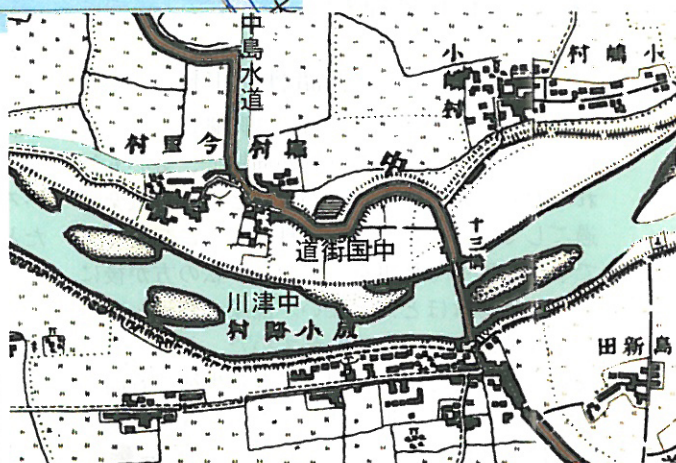
表紙の地図の説明

平成の地図に
明治の地図を重ね合わせた。

体育館のあたりに中津があったと思われる。明治の地図で東西に流れる中津川はよく氾濫し、明治18年の大洪水のあと、明治20年代に新淀川が掘削され十三の風景が大きく変わった。母校は、中津（今の済生会病院）から昭和6年にこの地に移設される。

↑ 平成12年測量再編集の1万分の1地図。
改築途中の昭和・平成校舎が共存している。

明治18年測量の2万分の1地図。 →



国土地理院発行の1万分の1地形図(十三 平成14年発行)と、
2万分の1地形図(大阪近傍中部 明治20年発行)とを使用した

六稜会報 No.48

発行日 2007年3月1日
発行者 山本 次郎
編集委員 岡田 一彦
壽榮松 正信

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>
〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内
phone.06-6306-0374 fax.06-6306-1335
e-mail.office@rikuryo.or.jp 郵便振替.00990-4-68025

デザイン 株式会社ひかり工房
印刷 〒556-0004 大阪市浪速区日本橋西2-2-11
phone.06-6641-6011 fax.06-6641-6012

事務局 月・水・金(祝日は休) 10:00~17:00 北野高校内